

福岡大学医学部同窓会

2003年秋号
鳥帽子会会報

35
号

鳥帽子会旗のデザイン決まる
(FIDES … 信義)



■平成14年度評議員会議事録 6

■医学部の講座編成 24

■特集 クラブ生まれて30年 サッカー、剣道、準硬式野球、硬式庭球 32

■平成16年度福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項 42

目 次

・会長挨拶	
国試九州NO1!からの遠景	高木忠博 3
・第22回鳥帽子会総会報告	
『IMAGINE』	坂上明彦 3
・第23回鳥帽子会総会予告	5
・平成14年度評議員会議事録	6
・平成15年度同窓会研究奨励賞選考報告	湖啓二郎 15
・平成15年度研究奨励賞受賞の言葉	新村英也 15
	下地栄壮 16
・平成14年度研究奨励賞研究報告	小川正浩 16
	西尾淳 17
・教授就任挨拶	
「教授就任のごあいさつ」	田中正利 18
「筑紫病院循環器科教授就任のお礼とご挨拶」	浦田秀則 19
・教授就任祝辞	
「祝教授就任—筑紫病院の発展を祈って」	湖啓二郎 20
「浦田くん教授ご就任おめでとう。」	広瀬伸一 20
・同窓生交歓	
・行事報告	
国試激励会報告	占部嘉男 22
新入生歓迎会	二田哲博 22
M4激励会報告	笠健児朗 23
・医学部講座の再編成	24
・会員寄稿	
良医とは	有馬純孝 25
初めて患者と触れ合うさまざまな医療関係者へ	重森裕 25
医療とマジックによるボランティア活動	伊藤実喜 27
・支部便り	
甘木朝倉支部発足	田邊庸一 29
広島支部総会の報告	横手祐司 29
佐世保支部会から	山川裕 30
筑後支部の近況について	宿里芳孝 31
・特集 クラブ生まれて30年	
サッカー愛好会の30年	蛭崎隆男 32
医学部剣道部生まれて30年	松永彰 33
準硬式野球愛好会の門出	木庭一浩 34
硬式テニス愛好会生まれて30年	鬼木寛二 35
・キャンパス便り	
西医体の結果について	尾崎勇 37
・鳥帽子会資料	
平成14年度収入支出決算 平成14年度残金処分 平成14年度特別会計決算	38
平成14年度財産目録 平成15年度事業計画	39
平成15年度収入支出予算	40
・計報	40
・医局長医長名簿	41
・人事	42
・平成16年度 福岡大学医学部同窓会研究奨励賞募集要項	42
・事務局からのご連絡	43
・編集後記	43

会長挨拶

国試九州NO1！からの遠景

烏帽子会 会長 高木 忠博（1回生）



高木会長

今年の医師国試も102名の新卒者の内100名（三桁）合格で、2年連続98%と言う好成績でした。3年前、国は医師国家試験の大改革を行いました。従来の試験対策があらかた役に立たない事になり、学生達の不安は大変なものだったろうと思います。

しかし、大学はそれを見事に自力で克服しその困難を何とか切り抜けました。今迄の国試成績の低迷は一体何だったのだろうと思う程の快進撃です。この理由は当時の時間の分析が教えてくれる様に思います。

ここ2-3年の福岡大学は、丁度大量の教授交代時期と重なっていました。卒業生の林君や朔君の教授就任もありました。そして様々な大学出身の先生方が教授として就任されました。この事は福岡大学医学部に初めて「多様性」が入ってきたと言うことを意味します。「多様性」は一見良い言葉のように使われますが、反面、大変複雑でちょっと厄介な社会因子でもあります。しかし、この厄介物を如

何に制御するかは人に色々の「知恵」を要求します。この時期はこの福大の大きな過渡期に、国試形式が変わると言う更に大きな試験が重なった時期だったと云う事が出来ます。一気に教授選が進み、大きく変わりゆく大学の状況を見て教職員には危機感が生まれ、その中のOB、OGも自分の立場を認識して教育に対する取り組みを変えざるを得ませんでした。自然、学生も又否応なしに「自立心」を自覚させられる結果になったのだと思います。そしてそれは此處3年間の後輩学生達に「学生仲」が良いと言う共通点を生み出しました。危機の発生は一致団結を促進させるのでしょうか。

たまたま福大の重大な過渡期の時代に、教職員、学生が危機感を共有し、相携えて困難に立ち向かってみたら、図らずも国試新卒合格者全国トップレベルの実力の持ち主である事が実証されました。頼もしい限りです。この結果は最低5年間は続いて欲しいと思います。5年間続くと伝統らしきものが誕生します。「大学」と「学生」と「烏帽子会」が、それぞれに十分に連携を密にしてこの成績を続けて行きたいものです。我が福岡大学医学部は、モット自信を持って良いのではないでしょうか。

総会報告

第22回烏帽子会総会報告『IMAGINE』

当番幹事会長 坂上 明彦（6回生）

7月12日土曜日に開催されました第22回烏帽子会総会は特別会員は8名、学生3名、同窓生142名の合計153名の参加があり無事終了致しました。ご来賓の菊池副学長並びに白日福大病院長、森園福大筑紫病院長、都歯科口

腔外科教授、岩崎第一病理教授、有吉元福大病院長、金岡元産婦人科教授、岡田元微生物教授など多数の先生方にお忙しい中ご参加戴き深く感謝致しております。総会は司会小川厚により、中村英助議長、笠健児朗書記選出の上支

● 総会報告 ●

障なくご賛同を戴き無事終了致しました。

総会に引き続き、隣の会場で懇親会がJOHN LENNONの曲『IMAGINE』と共に始まりました。スクリーンには生命の根源である海の中の生きもの達のDVD『Marine blue』が流れ、イルカのダイナミックな動きやイソギンチャクと魚の気持ち良さそうなやりとりが写し出されました。挨拶の合間は終始BEATLES曲が流れていき、過ぎ去った20数年が戻って来たような心地で、恩師や旧友と語りながら飲むお酒の味も深りました。

懇親会に先立ち、主賓の菊池副学長よりお話しがあり、新福大病院建設の建設時期は、地下鉄3号線を中心とした七隈周辺の道路整備と共に福岡大学全体の整備計画があり、新病院建設はその一部でありまだこれからとのお話しでした。白日病院長のお話しも病院全体の経営状況の厳しさが新病院建設へ影響しており、より一層の経営努力を要しているとのお話しでした。

ここ数年間に、福岡市内の国公立病院は最新医療装置を備えた華麗な新病院建設を終え、近

在の私立病院も既に病院の建て替えを終え、強力に院内宣伝と病診連携を訴えています。新しい福大病院建設はこれらに遅れる事10年程先になりそうです。しかし、その間にも最大の努力により、第3次医療機関に必要な医療水準を維持し乍ら市民に信頼される福大病院を追求して行かねばなりません。先日、ロシアから福大病院へドミトリーちゃんとおかあさんが眼の治療にやって来ました。治療後の二人の笑顔の中に将来の新しい福大病院のあるべき姿が見えた様に思いました。

そこで、我々は今回同窓会総会のテーマとして“地球に平和”を訴えるJOHN LENNONのmessage songでありますIMAGINEを“人と自然にやさしく”と解釈して、新しい福大病院が子供達や女性達に優しい良い病院になって欲しいとの願いを託しました。子供達や女性達に優しい病院は男性達にも優しく信頼を得る事になりますし、そこで育った先生達は必ず患者さん達に信頼される良い医師になります。



坂上総会会長





第23回烏帽子会総会予告

とき

平成16年7月10日（土曜日）

ところ

ホテル日航福岡（福岡市博多駅前）

平成14年度烏帽子会評議員会議事録

支部活動援助費決まる・・議題2参照

◆日 時 平成15年4月26日
◆場 所 福岡国際ホール・九重の間
◆出席者 評議員 78名中
 実出席：35名、委任出席：18名
 支部長 18名中 出席：9名
 （うち評議員兼務再掲6名）

◇平成14年度経過報告

〈高木会長〉

皆さんお疲れ様です。今年もまた4月という節目の時になりました。今年も24日に国試の発表があり、結果が昨年に続き九州でN○1、私学でN○2の成績を出してくれました。24日の発表の日に新6年の国試激励会を福新楼で行いましたして気合いの入った会でした。来年も良い成績が望めると思います。それが1つの伝統になって先輩がそれだけの結果を出したら自分達もそうしなければならないという雰囲気が醸成されていけば、かなり国試対策は軌道に乗るのではないかと思います。それともう1つ、今年は卒業生子弟の福大医学部入学が例年になく多かったことです。合計で11人。昨年は3人と少ない報告しか出来ませんでしたが、今年は推薦で6人、一般で5人の合計11人の合格者が出来ました。これからどんどん増えていくようになりますし、受験生も全国から集まる雰囲気になっています。同点の時には是非子弟を優先的にお願いしたいと毎年私は学部長に話を行っています。1つ1つの積み重ねが我々烏帽子会の機能として固まって行きますし、今皆さんの御陰で資金的にも充実し学生に対しても他の活動に対してもうまく動き始めています。同窓会の1つの形が出来、それが動き始めたという状態になり明るい未来があるのではと、活動させていただきながら感じています。

◇議題1. 平成14年度収入支出決算見込み

（附：会費納入状況）

★平成14年度収入支出決算見込み

〈池田事務局長説明〉

〈重田副会長〉

収入は予想より上目でいき、支出は事業費はほぼ消化しておりますが全部執行は難しいという状況です。雑費のところで医学部創立30周年とグッズの作成費が増えているということが大まかな点です。30周年

の記念事業についてここでしか説明出来ませんので松本先生の方から説明お願いします。

〈松本理事〉

簡単に申し上げます。30周年ということでメモリアルなお祝いとして岡崎教授が準備委員長をされており、大勢の学内の同窓生も準備委員となり、学外の同窓生も会長の指名で私が携わってきました。当初の目標が500万円で、準備委員会に出られた教授に分担してお金を集めてほしいとの話でしたが、社会情勢からみても困難であると頭を抱えてありました。会長の方から寛大な援助がありました250万円という金額をポンと出しました。当初会場費や懇親会費は同窓会員が各自負担しなければならないところだったのですが、それが全部タダになりました。250万円ですべて賄うことができ助かったという声があちこちで聞こえていました。

〈重田副会長〉

総予算500万円の内半分を我々が出たということですね。バックアップ体制をとっているのですが、学部の方がどれだけ同窓会の方に向いているかは問題です。しかしその都度お金は出していきたいと思っていますのでご承認頂きたいと思います。今後このような事業が多くなると思います。40周年、50周年があると思います。その都度学部の方から寄付のお願いがあると思いますが、そんな時は先ず同窓会へ言ってほしいと思っています。我々が一緒になって皆さんにお願いする、予算の中で行えるものは予算の中で行うというスタンスは作って行きたいと思っています。学部から直接に皆さんの方へ寄付金のお願いをすることは止めてほしいと理事会では考えていますので、その方針は学部の方へ申し伝えておきます。そのことについて何かご意見ございませんか？いまのスタンスをご承認ということでお願いします。

現在、総会の前の決算評議員会を省略しておりますので、これによって平成14年度の決算を承認頂く形を取りたいと思います。

* 平成14年度収入支出決算見込みは拍手を持って承認される。

★会費納入状況について

〈松本理事〉

説明の前に財務担当理事として毎年のことではござ

いますが、大変多くの年会費を納めて頂きました、また各支部長には多大な迷惑をおかけする中、このような高い納入率を出して頂き事業の方も順調に行われております。財務担当といたしまして深くお礼申し上げます。ありがとうございます。前年度と表の出し方を変えておりますのでご注意下さい。左側の支部徴収、これは各支部長さんが支部の会員の年会費を集め、担当の方が本部に納金して下さるというシステムです。それによって例えば福岡支部を見ますと14年度の人員176人に対し131人の方が支部から納めて頂いて74.4%の納入率で件数は140件であったということです。ただ131と140の9件の差は過年度分が含まれていますのでその為納入率が下がっています。176人の内支部請求されても払ってくれなかつた人の分については右の本部徴収に含まれています。本部徴収で督促請求しそれで払ってくれた人、それでも払わなかつた人も入っています。また支部活動で支部が徴収してない支部、または全く支部がない地域には本部の経費で個人的にお願ひして毎年払ってもらっています。平成11年度は支部が徴収し本部が督促した納入率は92.4%と非常に高い納入率を示しています。平成12年度は89.4%となっており、毎年年会費を請求して何割入っているのかと言うと7割です。例年お話ししておりますがうちの納入状況は大変すばらしく他の同窓会ではありえない金額です。これは何をおいても福大の同窓会の皆様の暖かい心遣いによるものです。それと同時に左のページに会費請求の状況を書いておりますが池田さんを中心に事務局の方がしっかりして下さっており、入会費・学年会費・年会費の定期請求を行い、払わない人には更に督促請求をするなど年中気を使って下さり、中には「そんなにうるさいなら払っちゃろかね」(笑い)と言う方もいらっしゃるかもしれません。以上のことから収入の方は上手くいってる現状です。

〈重田副会長〉

ご質問はありませんか？毎年順調に予想どおりの納入状況です。おかげさまで、事業予算が大きく伸びまして3千万になってきております。支部徴収の話は毎年出ておりまして支部の目安という項目も後でありますのでその項目でまた再確認頂きたいのですが、今のままのスタンスで支部長さんは大変だとは思いますがやっていきたいと思っています。御協力の程お願い致します。納入状況についての説明を終わらせて頂きます。

◇議題2. 支部活動のめやす（案）と支部活動援助費について

〈重田副会長〉

昨年の評議員会を思い出していただきたいのです

が、支部活動援助費というものを理事会の方で再提案させて頂きました。いろいろ問題点もありましたので、一年間延期としその間皆さんにも考えて頂き、理事会でも再度結論を出す形にしておりました。理事会でも案を作成いたしましたが何か支部の方で支部活動援助費について意見をまとめたり、意見があるということがございましたら承りたいのですが・・・。何かございませんか。

支部からの意見はないということで理事会の方からの再提案とさせて頂きたいと思います。

〈松本理事〉

財務との関わりがありますので私の方から説明させて頂きます。昨年度の事はみなさんよく覚えてあると思いますが確認させて頂きます。事業費の中で支部活動援助費100万円を計上させて頂きました。これは賛成多数で承認を頂きました。その後具体的に支部活動費についてどうしようか、どの程度、どうするのか提案致しました。大多数の所は支部に余裕があると都合がいいので助かるという意見が8割ぐらいありました。中には細かな質問と整合性についての意見がありましたので、整理して申し上げたいと思います。高木会長の考えはしっかりととした支部になって頂きたい。本部の頼りになる支部、力のある支部が次ぎ次ぎと出来、本部の尻を叩くような存在であってほしい。しかも会費の事も含めて本部を支援できるような形の力を蓄えてほしいとの願いがあります。その中で支部の方も大変なご苦労をされています。特に支部の方への電話連絡や葉書連絡には諸経費がかかりますが、それは全部自前であります。故に何らかの援助が出来ないかということが主旨でした。そこで支部の形について資料5をご覧戴きたいのですが、支部も色々な形があっていいのではないかと思っています。本部としてはしっかりととした支部をお願いしたいが、まだ出来たてのホヤホヤの所は支部の体を成してなくても構わないし、地域で同窓生が集うという形だけでも結構です。ただ目安としてどういう支部になって頂きたいかという本部の願いが資料の右側のページに書かれています。結論からして、均一に皆さんの所へお返しすると言うわけではなく各支部で支部活動費にお金を使うし少しでも援助があった方がよい、また今支部を作ろうとして諸経費が少し必要という所へ本部の方から金額の限度を決めて提供したいと考えています。本部から徴収する場合年会費の2割弱程度が諸経費としてかかります。それを支部に置き換えると例えば10人から集めてお金を送った場合10人分の2割か2割以下を目安に本部から活動費として提供したい。その時には支部長さんともう一人会計をなさる方がおられる助かります。またお金の運用に関しては責任をもって

やっていたいと想っています。そういう形で支部活動支援をさせて頂きたいというのが本部の見解です。

〈重田副会長〉

以上の説明で昨年の話の総括的なまとめになると思います。理事会としましては支部活動援助費を作りたいと考えています。資料5の改正案8を設け承認頂きたいと提案させて頂きました。何かご質問は?

〈筑後：浅倉評議員〉

今まで本部から支部に講師招聘援助金等を頂いておりましたがそれとは別にということですか?

〈重田副会長〉

そうです。

〈松本理事〉

追加させていただきますと昨年混乱したのは年会費は8千円でいいのか1万円なのかと解りにくい話になりました。結局結論としては年会費は1万円頂きます。それから本部から支部へ前年度支部が集めてくれた人數分に比例して翌年度に還元するシステムにしようというのが本部の方針です。

〈重田副会長〉

総会を開催された時に我々が出向くと祝儀があります。また生涯教育予算というのがあり大学から講師を呼んで頂くこちらが援助して4～6万円出るというシステムがあります。それと支部援助費で支部の活性化をお願いしたいという3つがあります。支部長の先生方よろしいでしょうか?権藤先生よろしいでしょうか?

〈福岡：権藤支部長、理事〉

支部活動としては他の支部も同様ですが、これだけの人数分を集めるのは大変で郵送、FAX、電話、そのシステムをどうするか話し合うために必ず年に2回位は各区の委員に徹底しており、そのためには必ず諸経費が2割位はかかります。なおかつ年に2回か3回講師を招聘して講演会を行っておりますが、講師代も場所代もかかります。たくさんの人に来て頂きたいという気持ちもあり援助金があると一回の会費が少なくなります。値段が高いと来にくいという意見もかなりありましたのでなるだけ減らしたいと思います。援助費がこれだけあると負担も減り、講師の先生も呼ぶことが出来、支部活動も活発になると思います。これが承認されれば我々は非常に助かると考えています。

〈佐世保：久保評議員〉

偶然昨日久留米大と福岡大の合同佐世保支部講演会がありまして、久留米の放射線科の石橋助教授が講演されその後懇親会がありました。支部活動において講師を招聘する場合合同でもかまいませんか?単独でないだめですか?

〈高木会長〉

いいえ、そんなにガチガチではありません。九州にはたった2つしか私学がありません。久留米とはい意味でのライバルでありますし、私学の仲間ですのでコミュニケーションは取って頂いていいと思います。これは淨財ですので、明確なものに使われば生きたお金になると思います。

〈久保評議員〉

秋は福大が担当に決まったのですが、申込みは個人的によろしいですか?

〈重田副会長〉

いいです。同窓会員を集めて頂いて講師を招き講演会をするスタイルが一番多いと思いますが、そういうことの援助はいくらでもやろうと思っていますので、有効に使って頂ければと思っています。それでは議題の2番についてのご承認を頂きたいのがよろしいでしょうか。

*支部活動のめやす（案）と支部活動援助費については拍手を持って承認される

◇議題3. 平成15年度事業計画（案）について

〈武末理事〉

会報担当をさせて頂いております11回生の武末です。前回の会報からは編集委員長は喜多村先生にして頂いています。会報は年に2回発行しております今は5月の発行に向け原稿準備中です。編集長の好みと趣味によって装丁を変えてみたり中身を工夫したりしているところですが何分編集委員2つ3つの頭では出てくる案も限界があります。皆様のご意見を頂き、皆さんに見て貰って役に立つ会報にしていきたいと考えております。また、今年ホームページを作成しました。福岡大学のホームページにもリンクしており、「鳥帽子」で探して頂ければ開くことが出来ると思います。まだまだ未熟で形も出来ておりませんが、今後こちらにも有用な情報・案内をだして行き皆さんにご利用を頂きたいと思っておりますので是非一度覗いて見て下さい。

〈重田副会長〉

同窓会報について何かご意見がありましたらこの場で伺いたいのですが。

〈11回生、田中評議員〉

春と秋で冊数に差がありますがその理由を教えて頂きたいのですか。

〈武末理事〉

秋号は学生の保護者に全部送っています。学生も会員ですので配布しておりますが、保護者にも、同窓会としてこういう事をしていると知って頂く広報の一環として送っているため秋号は600枚数が増えております。

〈重田副会長〉

会報については個人的には「もうちょっとおもしろいもんにせんか」と意見は聞くのですが、言いたいことを皆さん言っていいですよ。(笑い)。秋号では筑紫病院の提言を見て頂けたと思うのですが、我々のアイデンティティを出すのもいいのではと思っていますので、今後はもう少し内容のあるものに出来ればと思っています。では次は②の総会の開催についてです。

〈田野理事〉

総会当番理事の6回生の田野でございます。総会準備金として今年も例年とおり20万の経費を計上させて頂きました。これは総会の会費収入の発生する前の準備段階で必要な連絡費・あるいは印刷費・諸経費を補助するためのお金です。今年の例を申しますと実際には昨年の7月の総会が終わった時から月に1回の割合で、福岡市内・久留米・北九州在住の6回生・16回生、次回開催の7回生あるいは77の入学年度の人達を中心にして結成されました準備委員会を開催しております。その時にかかる連絡費等に必要な金額でございます。総会についての具体的な内容について実行委員長の坂上先生より説明がありますが、今年は純粋に総会を楽しんで頂けるような企画を計画しておりますので是非とも皆さんの参加協力をお願ひいたします。

〈重田副会長〉

次は③の支部活動援助についてです。先程ご承認頂きました支部活動援助費がこの部分に入っております。

〈松本理事〉

先程の講師招聘費が載っていますので、招聘されるところは60万円計上してますのでどんどんご利用下さい。支部活動費はますます支部活動を盛んにして頂いて援助として還元させていただきたいということです。

〈重田副会長〉

次は④研究奨励賞についてですが、今年も150万円予算計上しております。林教授お願ひします。

〈林副会長〉

例年研究奨励賞を提示しております。ほとんど七限支部からですが応募も増えてきております。それに従い研究内容も様々ですし、大きな研究内容も出て参ります。昨年以降は量もアップしてきまして将来的には1つの研究のプロジェクトを仕上げられる額を差し上げて大いに研究に利用して頂こうと徐々に額も増えております。150万円というかなりな淨財を頂戴する形になっていますが、幸い今までの受章者の中にはニューイングランドジャーナルオブメディシンに論文が掲載されましたし、各科の一流紙に実績を残して下さっております。この点も含めて十分に研究奨励金は機

能しておるのではないかと思います。願うのは学内だけでなく学外の研究施設で働いている同窓生を支部長さんが掘り起こして頂いてそういう方にも同窓会からの研究資金を寄贈する事も考えています。もし可能であれば支部長の方からも説明を願いたいと思います。

〈重田副会長〉

久留米大学の1000万円並になるとかなりのものになると思います。それを目指して頑張っていきたいと思います。次は今の同窓会活動の大きなメインの事業であります⑤の学生対策と⑥の白衣の贈与について会長よりお願ひします。

〈高木会長〉

この学生活動は1. 4. 5. 6年生という段階で関与しています。1年生は入学して1ヶ月後の5月に行っております。この時点ではお互いにあまり知らない関係で、自分は福岡大学の仲間になったのだという気持ちをプリントイングする意味もあり自分も福大人であるという意識をもっと持つてもらうことを目的として新入生から始めています。4年生から5年生に上がり、ポリクリを回るときに白衣の贈呈をしています。今年は学部ガイダンスの中で大学の方から一緒に白衣贈呈をやってくれということで私も出向きました。白衣贈呈には白衣を着て立派な医者の世界に入っていく後押しをするという気持ちを込めて一人一人に手渡しています。エンブレム・大学名・氏名が刺繍された白衣です。学生はグッズで何となく自分たちのアイデンティティを感じる事に関しては非常に効果がありまして、好んで着用してくれています。こういう地道な学生に対するアプローチがその学年のモチベーションを上げていき、国試のいい成績に繋がっているのではないかと我田引水的に思っています。1年生の時から同窓会が関係していくと各学年の集まりの時に何度も会っていますので非常に盛り上がります。その盛り上がりをどんどん作っていくことから何かが生まれないかなと願って学生に対する支援を色々なコンテンツでアプローチしています。

〈重田副会長〉

3年前から初めてなかなかいい雰囲気で行われていると思います。出来ましたら支部長さん達にお願いしたいのですが、いつも福岡の福新楼でしていますが、福岡支部のメンバーに出席して頂いて学生100人に対しOBが20~30人は参加してもらっています。参加されたOBには一言話して頂いているのですがいい感じで話しています。他の支部の先生方も何人か選抜して頂いて集まりに出てきて頂けたらと思っています。北九州・久留米・嘉飯山の先生方を含めて福岡県内の先生方には行事への参加を是非お願ひしたいと思いますので宜しくお願ひします。何か学生対策につ

いてご質問はございませんか？

〈武末理事〉

白衣については5月に発行する会報に写真・会長の思い入れ・白衣の説明を載せておりますので是非ご覧下さい。

〈高木会長〉

この白衣は自画自賛ではありませんが、生地にこだわりましたし、とても着やすいです。私も今外来で着て診療しています。ほとんど同窓会に関心のない同じ脳外科の仲間がいるのですが、今医療状況は私も含めて厳しいですよね、少しくさっている時にそんな関心のない人間から「白衣はどうしたら買えるんね」と電話がありまして「この白衣を着とったら元気になって病院も右肩上がりになるぜ」と冗談を言ったのですが、なんとなく学生も同じ物を着ているんだと思いながら仕事をすると、ちょっぴり楽しい大人の遊び気分に浸れるのではないかと思いますので一度見て下さい。

〈松本理事〉

追加発言ですが、総会の時にでも用意しましかね。実は私も診療の時着ています。今度KCタイプも出します。夏場はKCがいいと言われる先生方もいらっしゃるでしょうから両方準備します。注文したら発送もしてくれるそうです。

〈重田副会長〉

学生対策に全力を尽くしておりますのでご了解お願いしたいと思います。では⑦の国試対策について林先生お願いします。

〈林副会長〉

今年度の福岡大学は120名中104名の合格で86.7%。全国の大学では並というところだと言えますが、新卒者に限って言いますと102名中100名合格98.0%の成績で、全国の国公立合わせても9番目。私立の中では2位です。少なくとも100名以上を卒業させた国立・私立の中では現在のところトップです。100名以上を受験させ100名以上を合格させた大学はほとんどありません、という状態です。今後の問題として18名中4名しか合格出来なかった既卒者の合格率を上げなければ全体としての合格率に影響があるということで、このことをどうするかですが、具体的にはここ2年間ではなくとも100名ないし97~8名。卒業さえしてくれれば余程のことが無い限り国試に合格してくれるところで来ています。油断はできませんがやっとこのレベルが2年続けて出来ましたので今後も気を引きしめて朔先生をはじめとして頑張っていきたいと思っています。ちなみに何故そんなに良くなつたかという疑問がお有りかと思いますが、はっきりしていることは内科が5つに分かれ競争原理が働いてきていることです。6年生の補習や5年生の実習での補習などに力を入れ

地道な努力をしている科があります。1つの科がそれをやれば他の科も横を向いてるわけにも行きません。教育に熱心な科には入局者が当然増える訳で徳をすれば利益が出る訳です（笑い）。頭をなでたり飲みに連れていくよりも、学生も解ってきてますので、一生懸命、まじめに、解るように教えてくれるところには人が寄ります。そうすれば自動的に競争になります。そういうことが自力をつけてきたことの最大の原因だと思います。私学において合格率が上がると「あそこは絞って卒業させないで上手いことやっているのでは」と言われますが、福大は昨年留年した者は今年ほとんど卒業しています。無理に絞らなくても6年になってどうしても合格不可能な者はに1年置く、2年置く形で出してあればほとんどが合格していく。というのがここ1、2年の現状です。これを更に維持して会長が夢として描いている100%合格で全国第1位というのを私達の目の黒い内に皆さんにご報告出来る事を期待しております。やはりこれに関しましては学内の人の努力だけではございません。教官と学生の間での様々なやりとり、教官ではない先輩と学生とが意思の疎通をして親しく小人数での教育を受け入れる素地を作つてやる。近しさを作るということが大変大きな効果を上げていると私は思います。権藤支部長をはじめとする福岡支部の先生方が行事に参加して頂いて様々に学生と接触啓蒙いただいているには大きな影響があると思います。従つてこういう行事には出来ましたら近隣の評議員、あるいは理事の方、支部の方も参加して頂いて大いに学生の啓蒙に努めて頂きたいとお願いする次第です。

〈重田副会長〉

以上の様になっております。皆さんご存じのことと思いますが、入試の難しさも含めて非常に学生さんの質が良くなり我々とえらい違いだと感じております。本当に実感するところです。国試がこんなに難しいのかと思いますがその点我々にとっては誇りの部分が増えたかなと思います。あと2年この状況が続けばかなりのレベルに行くのではと思っておりますので頑張ります。⑧、⑨、⑩、⑪は事務局からお願いします

〈池田事務局長〉

⑧支部祝儀贈与

支部会を実施される時、本部の方にご招待があればご祝儀を持って参ります。3万円でございます。新しく支部が発足する場合は5万円差し上げております。5月10日に甘木・朝倉支部が発足いたします。

⑨学生行事援助

西医体、全医体、医学祭援助40万と書いております。以前は学生1人当たり500円の頭割で無条件に渡しておりましたが、あまり生きた使われ方をしてないと判断

断いたしまして、本当に困った時、金が要る時に言ってくれば相談に応じるということを学生に言いまして昨年から始めましたが、昨年は申し出がございませんでした。学生行事への参加、これは学生の行事に学生の方から招待がございまして、手ぶらで行く訳にいきませんので何がしかご祝儀を持って行くという為のものでございます。

⑩慶弔贈与

現在同窓会での慶弔贈与は正会員、準会員、特別会員に対してのみ行っておりまして、ご家族に対してはやっておりません。祝儀・見舞金はまだ例が殆どございません。現在出ておりますのは弔意金が殆どで1件2万円です。これは会費を納入をしていない人にもやるのかと時々聞かれますが（笑い）今のところ差別はしておりません。将来は何かの申し合わせか規定が必要だろうとは考えております。

⑪グッズ作成

何を作るかはまだ決まっておりませんが、一部からはネクタイピン等はどうだろうかという意見が出ております。

〈重田副会長〉

次のグッズは何かありますか？今あるグッズは、ネクタイ、スカーフ、Tシャツ（1年生の学生さんにも渡しています）、白衣（長着・KC）があります。同窓会に対する年功も含めて何種類かネクタイピンを作つてみたらどうかと考えています。

次ぎに⑬のパニックマニュアルの発行についてです。今回は第4号のパニックマニュアルを作ることになりました。来年の2月に発行となり今度の卒業生に対する卒業記念品になります。担当は循環器科の6回生の野田講師になります。作成メンバーが若くなりまして新しいメンバーで新しい方向で作っていただくようにしておりますので楽しみにしておいて下さい。その予算が500万円です。

最後になりますが⑭の奨学金緊急貸与についてです。今までは貸与したことはありませんが、これについては我々も勉強になったこともありますし少し説明します。今年の2月に2年生の学生さんから奨学金の依頼がありました。何のために必要かと言うと10万円の生活費のためでした。まじめな普通の学生さんだしご両親は働いてあります。普通の学部ならよくあるパターンです。しかし我々がカルチャーショックを受けたのは、私学の医学部に来て、アルバイトで生活をするつもりだったがアルバイトが出来ないので奨学金を必要とするという現実でした。我々がイメージしている私立医科大学の子弟の状況が入試の状況も含めて若干変化しているのかなと感じました。所謂家庭状況が医者の家庭のお子さんでは無い場合、医者でもサラリ

ーマンの場合では私学の医学部はまず経済的に無理です。生活費の心配をされる家庭のお子さんが私学の医学部によく来たなあと思ってしまいます。こういう状況も含めて融資の状況もかなり難しくなっていると感じます。お金をなんとかしよう、医者になろうという風潮が世間的に出てきている、今までとだいぶん雰囲気が違ってきていると感じました。我々が作った奨学金のシステムは保護者が方が亡くなったとか、余程の緊急事態に備えてのものですから一応お断りしました。世間的には生活費に対しての奨学金制度がありますのでそちらの方を利用して頂くこととしました。問題提起と言いますか、入試の状況も含めて私学の医学部の厳しい状態になってきたなと勉強させられる感じでした。このことについて何かありませんか？

〈松本理事〉

私の息子も実は今年福大医学部に入らせて頂いたのですが、11名入学しています。今後我々の子弟が医学部を目指すケースが多いと思います。同窓会は多少のエゴイズムがあつていいのではないかと思います。何もかも救済すると言うことより究極は僕らの子弟を母校大学に入れる、その為に同窓会も活動をしているわけですから、経済的な事は同窓生である我々父親が支援するから、大学は俺たちの息子を入れてくれよという声の方が僕は大事じゃないかなと思いました。異常に冷たい言い方かもしれませんのが・・・

〈上村理事〉

問題提起をしたのは或る知り合いの方の相談を受けたからです。その学生さんは他大学の工学部に進学していましたが将来のことを考えて一念発起して医学部に入りなおしました。その時は奨学金を受けて他の学部の様に生活費はアルバイトをしながら6年間やっていけると踏んで入っています。ところがバイトと勉強の両立で体調を崩してしまい勉強をするのもままならない状態になりました。そこで奨学金をということになった訳です。私立の医学部が経済的にどれ程きつい状況であるか親御さんもよく理解されないまま甘い考えで入学させてしまったというのが実状のようです。これを問題提起として理事会の方でも検討して頂き、本人にもどういう実状か文書にして提出してもらったりしました。今後もこういう事が起こりうる可能性もあるだろうと思いましてお話をした次第です。

〈重田副会長〉

理事会では当初僕や松本先生の様な本音を言った訳ではないです。この話が出てきた時「そりや、かわいそうやなんとかしてやらな」と皆さん言われました。文書を見せられて「10万はなんとかしちゃらないかん」と思いましたし、会長はいの一番にそう言われたんです。みんなそう言ったんですが、よくよく考えると根

本的な部分で違うのではないかと言うことになりました。生活費に同窓会の奨学金を使うのは間違いであろうという結論を出しました。

事業計画案につきましてご承認いただけますでしょうか?

* 平成15年度事業計画（案）は拍手を持って承認される。

◇議題4. 平成15年度収入支出予算（案）

（池田事務局長説明）

* 平成15年度収入支出予算（案）は拍手をもって承認される。

◇議題5. 決算評議員会省略の件

決算書類は総会前に各評議員、支部長に送付し例年どおり総会前の決算評議員会は省略する。

* 決算評議員会省略の件は拍手を持って承認される。

（重田副会長）

今、朔先生が来席されましたので、担当の研究奨励賞・国家試験について朔先生より総括をして頂きます。

（朔副会長）

研究奨励賞は今完全に流れに乗っていますので何も言わることはないと私は思います。二内科の人がよくもらっている（笑い）次からこの委員会を外れようかと思っていました。金額も多くなりましたので益々頂きたいし、二内科から応募する人が多いので貰う人が多いのも仕方がないと思っています。国家試験ですが私学で2番目です。3年前から国家試験対策委員長を命ぜられておりますが、確実に伸びています。僕の給料を上げろと言っています（笑い）。もし先生方の中で誰か会われたら朔先生の給料を上げて下さいと言って下さい。以上です。

（重田副会長）

会長一言お願ひします。

（高木会長）

ここに来ている大学の2名の教授、教育に携わるOB達が立ち上がってこの結果が生まれたのだと思います。自分のことで精一杯という人が周りの動きに目を覚ましてもらって、自分たちが後輩を指導するのは当たり前だという雰囲気が大学の中に生まれてきたことは、非常に大きなことだらうと思います。朔先生が言われるように大学の中の雰囲気が変わってきていると思います。それと研究奨励賞ですが、各大学にOBや後輩達が行っていると思います。全国に福大マークの鉢巻きをした仲間達に確保の困難な研究資金を

提供したいと考えています。皆さんにお願いですが、各支部に戻られたら研究を進めている人材を発掘して是非応募するように話して下さい。仲間の選考に困るくらい広く全国から集めてほしいと思います。

最後に一言お願ひを致します。各支部において学生達ともっと接触して頂いて、「自分たちは、柔軟で丈夫なセーフティーケアネットがひいてある大学に入学したんだ」という意識を自覚するような雰囲気を各支部の方達が作って頂けると有り難いと思います。それが鳥帽子会の特長であり、いい同窓会へ成長して行ける一つの証だらうと思います。宜しくお願ひします。

（重田副会長）

折角の機会ですので学内の先生方に学内の状況を一言づつ話して頂きたいと思います。筑紫病院の2名の助教授もみえてありますので一声お願ひします。

（二見理事）

ご存じの方も多いと思いますが、昨年は筑紫病院の存続の問題がありましたがようやくOKが出て新しい部署を作る事だけ決まっています。今から具体的な動きに入るべきなのでしょうが、まだまだその動きはおとなしい状況です。それと筑紫病院も18年経ちまして代替わりになりました。3月一杯で広木先生が定年退職され浦田先生が部長ということで4月から循環器内科が発足しております。浦田君ちょっと話して下さい。

（浦田評議員）

振られましたので一言。4月1日より広木先生の後任の診療部長として任命を受けました。今は広木先生の後の教授選挙も進行中であります、巷には何か噂が流れているようですが実際教授選は進行しております。ただ他の教授選考や年度末の行事等に重なりまして現在中断しておりますが、広木先生の退任には間に合わなかったのですが、再開されれば上手く行くのではと個人的には期待しております。筑紫病院は地域的に見ますと非常に魅力ある場所であります、朔先生の御協力を頂いて、私共の循環器内科だけは筑紫と七隈の間に医局員の交流を持って人が回っている科です。ところが他の科を見ますと必ずしもその面で十分でない科もあります、今後は研修医の問題も含め、益々七隈との関連を深めて行けるような筑紫病院として再生させると同時に、地域医療に更に奉仕をして売り上げを上げ、臨床の重要な拠点としての役割も担つて行かなければいけないと思っております。少しづつではありますが改善して精進して行きたいと思っておりますので今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

（重田副会長）

皆さん、おわかりになられたと思いますが、今挨拶をされた二見助教授と浦田助教授2人が将来の筑紫病

院を支えていく大きな人物だと思います。あと、5年後10年後を皆でバックアップしていきたいと思いますので頭の中に入れておいて下さい。お二人大変でしょうが頑張って下さい。

〈柴田理事〉

4回生の柴田です。整形外科に所属しております。現在大学内での私の立場は講師でありまして、大局的に物を見る立場ではございませんが、現在学内の中の整形外科は年々手術症例数や外来患者総数は右肩上がりで推移しております。昨年の年間手術例数は900例を越えております。現在外科系単科の手術数ではトップクラスを走っております。これも偏に同窓会の先生方のご紹介によって現在に至っております。臨床面での充実を図りながら私自身もう一頑張り学内の方で頑張って行きたいと思っておりますので皆様宜しくご指導の程お願い申し上げます。

〈武末理事〉

筑紫病院の眼科で助手をしております。先程浦田先生のお話にもありましたが、うちも七隈と交流をもってやっていたと思っていたのですが、半年前くらいから問題がいろいろあるようでそれについて私は言う立場ではありませんので・・・ただそういう状況だということです。地の利は感じておりますが、筑紫病院は非常に便利な所にあって患者さんの医療圏も意外と広い所をカバーしていると思っております。手術眼科としてやっていますので紹介頂いて来ている患者さんが圧倒的に多いです。皆様の御陰だと思い頑張っております。大学病院は学生さんの教育もあり、その部分も含めてやっているところですので今後とも宜しくお願ひします。

〈重田副会長〉

最後になりますが、今年で22回の総会になります総会担当の6回生の坂上先生より紹介お願ひします。

〈坂上評議員〉

今回の当番幹事の代表になりました坂上です。上村先生から名前だけ貸してもらえば他は全部やると言ふことで乗せられましたけど、なんかかんか大変です(大爆笑)。何が大変かというと6回生は同時入学の先生が半分しか居ないものですから、後の半分の方達に対して3万円の寄付をどうやって出してもらうかが悩ましい問題です。先程の20万の準備金では足りない感じがしております。写真100枚をCDに打ち込んで全員に配布して何とか寄付を頂こうとのもくろみになっております。すでに6回生・16回生には振り込み用紙を発送して20名程振り込みは来ております。総会のテーマは「Imagine」ですが、その心はと言われると難しいです。

今、藤崎の方で開業していますがそこから福岡市の

医療状況を見た場合について少し触れたいと思います。私は一時期成人病センターの院長をしてまして、成人病センターの経済状態に問題が起ったことがあります。数年前に収入が1億円ドーンと落ちたのです。何故かと言うと「あっ!」この話は今度の総会のテーマと関係がないようありますので・・・。周りの国公立がものすごい重装備の建物を作つて診療連携を厳しくやってきて色々な情報を送つてきています。それから成人病センターは市の医師会ですから小さなものですので1億円収入が落ちたのです。福大を藤崎から見た場合にやはり福大も何時までもほんとはしておれないでしょうし、建物を作る場合何かいい形での新しい福大病院であつてほしいと願います。例えば技術水準に伴つた子供に優しい福大とか、技術水準に伴つた女性に優しいとか、子供や女性が、福大だったら是非行きたいと思う病院になってほしいなあという願いからジョン・レノンの「Imagine」へ繋がる訳です。この「Imagine」は人に優しく自然に優しくと言われていますが、人の命に非常に優しくイマジネーションを働かせる、自然科学に優しくイマジネーションを働かせて研究を行うという形のイメージを持っています。そこで7月12日の総会では、会場に「Imagine」を流しながら、「Imagine」の好きな人達が福大医学部生である、福大医学部生は「Imagine」が好きであるという必要十分条件の形の表現を願い、私の独断と偏見でそのテーマを「Imagine」と致しました。

また今年はシンプルにやろうと考えています。講演会はなし。近況報告として山口大学医学部教授になられた同期生の宮本康嗣先生にお話を頂きます。音楽は全てジョン・レノンの曲を中心としてビートルズの曲を流しながら、料理はイタリア料理を。ワイン・酒を傾けながらゆっくり友達と2時間歓談するのがおもしろいのではということで・・・私の話は終わります。

〈上村理事〉

決してだました訳ではありませんが、私は理事で同窓会の仕事をさせていた頂いています。僕と同級生何人かと話して、やはり同級生の中でも年齢が上の人がいいだろうし(笑い)、日頃同窓会の活動にあまり深く関わってなかつた方で、温厚な方がいいのではないかということで坂上先生にお願いした次第です。坂上先生の色を出してしていただければということで、記念に残るような、心に残るような総会が出来ればと思っています。今年の目玉としましては支部長の先生方や医局長に是非参加を呼びかけてその場で現況を2~3分でもお話しして頂ければと考えています。是非とも参加して頂いて会を盛り上げて頂ければ幸いと思って

おります。宜しくお願ひします。

〈坂上評議員〉

日時と場所が落ちておりました。7月12日土曜日17時30分からです。場所は天神のソラリア西鉄ホテルです。よろしくお願ひします。

〈高木会長〉

最後に一言お願ひがあります。今私は医学部代表で有信会の理事を勤めています。またその関係で昨年からは有信会推薦の大学の評議員にも就任致しました。就任して初めて解りましたが医学部に対する福岡大学の中の風当たりは非常に強いです。病院の建て替えの話にしても、先日福岡大学の評議員会がありまして、そこで福岡大学の17年、18年、19年の計画を評議員には提示されるのですがその中には病院に関するることは一切記載されていませんでした。そこで質問したのですがその話は平成20年の福岡大学キャンパス計画の中に入っていますと言う返事でした。20年ですよ。計画の中に入っていてそれからどうするかという話がそこから始まる訳です。その位ですから医学部の建て替え等我々が非常に困っているという感覚と大学の中の雰囲気につれがあると感じました。そこでお願ひなのですが、医学部の支部長をされたりしたら大学全体の有信会から声がかかると思います。申し訳ありませんが、その会に出て行って頂いて卒業生の声を醸造してほしいです。筑紫病院の建て替えについては九電まで寒い時期に3人で出向いて鳥帽子会としてはこのように筑紫病院の事を考えていましたと思いの丈を話しました。筑紫病院はソフトウェアで同窓生が居る病院としてはこれから福岡大学の力になる病院だと思いますと話しました。一生懸命話して我々の気持ちを訴えて少しは変わるかなと期待をしましたが何も変わりません。ぜんぜん変わりません。福大生の中で医学部という存在をもう少しパッシブにアプローチしていく必要があると強く感じました。私も一生懸命有信会の各会議に出て行って出来るだけ顔を売って「医学部は今こうです。こういう風に頑張っています。」という話をしています。そうすることで「医学部はなかなかしっかりして、我々の仲間に入れるにはお医者さんということで少し違うかなと思っていたが、そうではなく同じ福大マークの付いている同じ人間なんだ」と解ってもらう活動もしないといけないなと思い、じやかじやか顔を出しているところです。各支部長さん達にもそういう話がもありましたら、是非参加して有信会の中の他の福大の卒業生の人達に医学部の存在をもう少し分かり易く説明する活動をして頂けると有り難いと思います。お願ひ致します。

〈重田副会長〉

有信会との関係ですね。会長ながら心配されており

ますので、有信会の活動をされている先生も居られますので位置づけというか、何か江下先生ありませんか?どう思って行けばよいか等。会長は公の所に引っ張り込まれますので大変です。我々のスタンスでどうですかね。

〈江下理事〉

有信会は17万人位いますかね、福大出身の卒業生で構成されている同窓会ですが、やはり医学部に対してかなり厳しい目が多いようです。ただ、医学部の卒業生と友達になるのは皆好きなんですね。酒飲むような場でも出て行って頂いて我々が医学にまじめに取り組んでいる実状を話して啓蒙して頂ければと思います。早速5月に代議員会がありますので積極的に出なくてはいけないと思っています。

〈重田副会長〉

坂本先生一言お願ひします。北九州支部は割と有信会と一緒によく会合をしております。また坂本先生は有信会北九州支部の副支部長もしております。

〈坂本北九州支部長〉

有信会の付き合いは、上村先生のお兄さんと僕は同級生でお兄さんは福大の商学部を卒業されていてとても事業家でいろんな人脈を持ってあります。上村先生のお兄さんや1回生の野田ばん(野田萬里)さんとか非常に仲がよく、私が産業医科大学に居たとき昭和代から北九州の有信会の若手支部を作ろうという方が上村先生のお兄さんの発想で、それから20年の付き合いです。少し間が開きまして私が北九州で開業してから前支部長の篠原さんに会う度に高木会長の事等話していました。辞められて昨年度から支部長が替わられました。結構医学部としての付き合いの前から可愛がって頂き医学部の代表として北九有信会の役員をということで昨年から仰せつかっております。残念ながら医学部は僕と重田先生だけが出てます。文系が非常に多く理科系が少ないですが、薬剤師関係は結構来ています。5月21日有信会総会がありますが10人以上北九州支部から出て医学部の力を見せようということで考えておりますし、また総会で今年は医学部の紹介をと言われておりますので、私が支部の方を本部の方は重田先生にしてもらおうと思っています。結構大事にして頂いております。それはこちらも準備委員会や毎月ある「八日会」にも顔を出しておりますのでそういう付き合いから始まっております。そういう現状です。

〈重田副会長〉

そういうところから始めて行かないとなかなか本部の理事会の方には伝わらないでしょう。支部単位で頑張って頂きたいと思います。

以上で全ての審議を終わります。

平成15年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 朔 啓二郎（1回生）

第7回同窓会研究奨励賞選考委員会を6月11日、医学部会議室にて開催しました。選考委員は、1回生、林（眼科）、3回生、辻（泌尿器科）、雪竹（総合周産期母子医療センター）、宇都宮（放射線科）、櫻木（麻酔科）、7回生、山本（脳神経外科）先生と私の7名です。5件の応募（1件が論文審査、3件が研究計画、1件は留学の助成希望）に対し、賞金50万円を2名の研究者（計100万円）に授与することを決定しました。

福岡大学病院循環器科医員、新村英也君（18回生、SCN5A gene analysis of patients with Burugada syndrome in west Japan）、福岡大学第二内科大学院生の下地栄壮君〔20回生、Inhibition of cholesteryl ester transfer protein increases serum apolipoprotein (apo) A-I levels by increasing the synthesis of apo A-I〕です。

新村君はBurugada症候群という致死的不整脈を発症する患者症例から、心筋細胞膜のNaチャネルの遺伝子異常を発見、その解析と治療を検討する実験計画、下地君はHDL-Cを増加させ動脈硬化を退縮させる薬剤の開発に関する

研究で、選考委員の強い支持がありました。

今回、留学に対する助成の希望が1件でおりました。定例理事会でも留学援助金の話題を取り上げており、実現にむけ予算化しようと議題にあげていた所でしたので、本委員会の責任において研究奨励金の枠内で50万円留保し、試験的に留学援助を行うようにしました。8月6日付けで各支部長および各医局・医局長に通達しております。留学は査証その他の手続きに時間がかかりますし、具体的に決定した時点での授与を考えています。本賞は、医学研究をすすめていって欲しいという先輩達の祈りや願いの中で設立されたもので、執行部も同窓会の一大事業と考えています。

毎年第二内科の研究者に授与するケースが多いのですが、投票による採決方法を取っておりますし、順送りの選考ではありません。また頭を下げて応募をお願いすることもありません。様々な分野、また地方の支部からの推薦を期待しています。同窓の先生方、後輩に応募する指導と動機付けをよろしくお願いします。

平成15年度研究奨励賞受賞の言葉

西日本地区におけるBrugada症候群患者の原因遺伝子SCN5A突然変異についての研究(計画)

福岡大学病院 循環器科 医員 新村 英也（18回生）

この度はこのように立派な賞をいただき誠にありがとうございます。昨年4月から大学に戻り朔啓二郎教授、松永彰助教授をはじめ諸先輩方のご指導のもと現在Brugada症候群患者の遺伝子解析に携わっております。

本症候群は心筋梗塞や心筋症等の基礎疾患を持たない比較的若年者に突然致命的不整脈を引き起こし、死に至る症候群として1992年にBrugadaらによって報告されました。特異的な心電図変化を示し、その発症に心筋ナトリウムチャネルの遺伝子異常が強く関与していると言

われております。時に日本をはじめとする東南アジア諸国で頻度が高い傾向があります。発症様式の多くは突然の心室細動ですので救命率が低く発症前の診断が非常に重要となります。その手助けとして遺伝子解析は今後重要な位置を占めてくるものと思われます。今回の受賞を励みにこれからも頑張っていこうと思っております。

最後になりましたが、この場をお借りしましてご指導を賜りました諸先生方に深く御礼申し上げます。

コレステロールエステル転送蛋白(CETP)阻害による 高比重リポ蛋白(HDL)の増加機序の検討(計画)

福岡大学大学院医学研究科 内科学第二 大学院生 下地 栄壮 (20回生)

この度はこの様な賞を頂き、大変光栄に思います。選んで頂いた選考委員の先生方ならびに同窓会の先生方に深く感謝致します。また、私を指導して頂いている朔啓二郎教授、張波先生をはじめ、多くのご助言を頂いたFan Ping先生、その他の先生方にもこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

現在、動脈硬化について非常に関心が高まっていますが、その中でも高比重リポ蛋白(HDL)の抗動脈硬化作用に関して多くの研究がなされています。その主な機序は、末梢細胞に蓄積されたコレステロールエステル(CE)を肝臓に転送し代謝する、いわゆるコレステロール逆転送系(RCT)における役割とされています。

コレステロール転送蛋白(CETP)は、このRCTにおいてCEをHDLからアポリポ蛋白(apo)B含有リポ蛋白に転送する役割を担う重要な蛋白です。ウナギにおいて、CETP活性を抑制することにより血中のHDL及びHDLの主蛋白であるapo A-Iが増加し動脈硬化の進展が抑制されたことは報告されており、本研究では、CETP阻害がHDLを増加させる機序を解明するために、CETP阻害薬のウナギにおけるapo A-Iの代謝及び肝臓・小腸での遺伝子発見に与える影響を検討致しました。本研究が、今後の動脈硬化の治療においていくらかでも貢献する事が出来れば幸いに思います。



受賞者：向って右、下地君 左、新村君

平成14年度受賞者研究報告

心房再分極のばらつきを表す電気生理学的新指標： 各種心房ペーシングの電気生理学的効果の比較

福岡大学病院 循環器科 小川正浩 (14回生)

従来、臨床心臓電気生理学的検査(EPS)における不整脈基盤の指標は、伝導時間や伝導遅延時間などでみる脱分極の指標と、活動電位持

続時間や有効不応期などでみる再分極の指標に大別できます。

心室において先天性QT延長症候群に代表さ

れるように、脱分極異常がないのにも関わらず再分極異常を持つことで多形性心室頻拍や心室細動を引きおこす様に、再分極異常は細動の発生に大きく影響します。従って再分極の指標を計測することは、細動の不整脈基盤をみるのに非常に重要です。

心室の場合は体表面12誘導心電図(ECG)上のQT時間やそのばらつきをみると再分極指標を比較的簡単に計測できますが、心房の場合は再分極波(Ta波)を体表面ECGで計測するのは大変困難で、EPSでの指標がより重要となります。

EPSでは、心房の再分極の指標として、局所(電極カテーテルを留置した部位)の心房有効不応期(=活動電位持続時間)が用いられてきました。しかし、心房細動中のように心房内各所がかなり高頻度で興奮している(興奮間隙が

非常に短い)状況であればよいのですが、洞調律時の心房興奮頻度であれば、局所の有効不応期のみでなくその部位における心房内伝導時間(P波の始まりからの伝導時間)を加味したものが、より実質的な心房再分極時間(Atrial Recovery Time)であると考え、そのばらつき(Atrial Recovery Time Dispersion)が新しい心房受攻性の指標になることを提唱したのがこの論文です。

この指標は、心房細動の薬物療法・非薬物療法の評価・治療効果判定などに有用であると考え、今後もさらに検討していく予定です。

研究奨励賞を頂き大変有り難くまた大きな励みになりました。今後もさらに研鑽を積み、努力していく所存です。皆様の御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

Establishment of a new human synovial sarcoma cell line, FU-SY-1, that expresses c-Met receptor and its ligand hepatocyte growth factor (論文)

ネプラスカ大学医学部病理学

西 尾 淳 (18回生)

平成14年度の同窓会研究奨励賞を頂いてから、早、一年がたちました。現在、ネプラスカ大学医学部病理学のBridge教授の下で、骨・軟部腫瘍の細胞遺伝学的研究を行っております。

滑膜肉腫は主として若年成人の大関節近傍に好発する軟部腫瘍で、細胞遺伝学的特徴として、X染色体と18番染色体の相互転座t(X;18)(p11.2;q11.2)が知られている。今回、我々は滑膜肉腫のヒト細胞株(FU-SY-1)の樹立に成功し、このヒト細胞株について細胞遺伝学的及び分子生物学的検討を加えた。手術で採取された組織を細切し、20%牛胎児血清を含む培養液を加え、37°C5%CO₂の条件下で静置培養した。培養開始3年までに73回以上の継代に成功した。倍加時間は96時間であった。FU-SY-1は47, X, +7, t(X;18)(p11.2;q11.2)の核型とキメラ遺伝子SYT-SSX1を示した。免疫組織化学染色では、FU-SY-1は非上皮性マーカーのvimentinと上皮性マーカー(cytokeratinとepithelial membrane antigen)がともに陽性で、加えてc-Metとhepatocyte growth factor(HGF)も陽性であった。また、mRNAレベルで、c-

met proto-oncogeneとHGF geneの発現を認めた。

昨年の受賞を励みに、その後、Desmoplastic small round cell tumor(Lab Inv 2002; 82: 1175-1182)、Dedifferentiated liposarcoma(Int J Oncol 2003; 22: 535-542)、Malignant fibrous histiocytoma(Cancer Genet Cytogenet 2003; 144: 44-51)、Epithelioid sarcomaの新たなヒト細胞株の樹立に成功し、より一層充実した研究を行うことができました。Epithelioid sarcomaに関しては、現在、comparative genomic hybridizationとspectral karyotypingという手技を用いて、さらなる染色体の異常を調査中です。また、Synovial sarcomaのヒト細胞株は様々な研究施設より細胞分与の依頼がきて、今後のこの腫瘍の組織起源の解明や治療に役立つことができそうで、大変嬉しく思っております。

ヒト細胞株を樹立するにあたり、臨床の先生方には検体の件で大変お世話になりました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

最後になりますが、福岡大学医学部同窓会の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

教授就任挨拶

教授就任のごあいさつ

福岡大学医学部泌尿器科学 教授 田 中 正 利



- S55. 3 鳥取大学医学部卒
- S55. 6 九州大学医学部附属病院研修医
- S56. 4 九州厚生年金病院 泌尿器科医員
- S58. 4 宮崎県立宮崎病院 泌尿器科医師
- S59. 4 佐賀医科大学医学部附属病院助手（外科泌尿器科部門）
- S60. 4 九州大学医学部附属病院助手（泌尿器科）
- H 6. 9 米国国立衛生研究所へ留学
- H 8. 9 九州大学医学部附属病院助手（泌尿器科）
- H 9. 2 九州大学医学部講師（泌尿器科学）
- H10.11 九州大学医学部助教授（泌尿器科学）
- H15. 4 福岡大学医学部教授（泌尿器科学）

このたび、平成15年4月1日付けで有吉朝美主任教授の後任として、福岡大学医学部泌尿器科学講座の三代目主任教授に就任いたしました田中正利と申します。

私は昭和55年3月に鳥取大学医学部を卒業後、同年4月に九州大学医学部泌尿器科学教室に入局しました。その後九州厚生年金病院などで臨床研修を行い、昭和60年4月に九州大学に帰学し、本年3月まで同大学に勤務していました。その間、平成6年から2年間米国国立衛生研究所（N I H）に留学し、エイズウイルスの薬剤耐性機構に関する基礎的研究に従事しました。九州大学在職中より、研究面では尿路性器感染症に関する研究に取り組み、また診療面では各種泌尿器疾患に対する体腔鏡下手術に取り組んでいます。

医学部を志す若者の多くは臨床医を目指していますので、大学の使命としては良い臨床医を育成することが最も重要と考えています。私の考える理想の臨床医とは、幅広い知識、高い技能、および豊かな人間性をバランス良く備え、理論と根拠に基づいた診断・治療、ならびにチーム医療が実践でき、さらに患者さんに信頼される医師であります。また、臨床医は日々進歩するよう常に向上心を持って、自分に厳しく、使命感を持って、忍耐強く医療に取り組むことが大切です。以上のような理想の臨床医の育成を目指し、熱意を持って卒前ならびに卒後教育にあたっていきたいと考えています。

福岡大学医学部泌尿器科学教室の診療面における特徴は、尿路性器癌、前立腺肥大症、尿路性器感染症、男性不妊症などの各種尿路性器疾患に対するオールラウンドな診療を行っているほか、本邦では数少ない小児泌尿器科の専門的診療を行っています。また、尿路結石症、上皮小体機能亢進症、各種の副腎疾患、腎移植などにも力を入れており、体外衝撃波結石破碎術、体腔鏡下手術、顕微鏡下手術など多彩な先進技術を駆使した専門性の高い医療を行っています。これまでと同様に患者さん中心の医療を継続し、社会から信頼される大学病院づくりに貢献していきたいと考えています。さらに、大学病院の使命として先端的な高度医療や臨床試験なども率先して行うことが重要と考えています。

本年、当講座は開講30周年という節目の年を迎えました。今迄の教室の伝統を受け継ぐとともに、泌尿器科学のさらなる発展のために教室員とともに精一杯努力していきたいと考えています。今後とも一層の御指導と御鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

筑紫病院循環器科教授就任のお礼とご挨拶

福岡大学筑紫病院内科第一 教授 浦田秀則（3回生）



- S55.3 福岡大学医学部卒
- S55.6 福岡大学病院研修医
(内科)
- S61.3 福岡大学大学院医学研究
科修了
- S61.4 福岡大学病院内科第二
医員
- S61.6 Research Fellow,
The Cleveland Clinic
Foundation
- H 1.6 Research Associate,
The Cleveland Clinic
Foundation
- H 3.2 Research Scientist,
The Cleveland Clinic
Foundation
- H 4.10 Project leader,
Max-Delbrück-Centre
for Molecular Medicine
- H 7.12 福岡大学病院内科第二
助手
- H 8.10 福岡大学病院内科第二
講師
- H14.4 福岡大学筑紫病院
内科第一助教授
- H15.10 福岡大学筑紫病院
内科第一教授

筑紫病院は昭和60年（1985）に開院しましたが、循環器科（内科第一）として独立したのは平成6年（1994）であり、比較的若い医局です。広木忠行前教授と諸先輩方が苦労されて現在の循環器科の基盤を作つて来られました。今回この科を担当させていただくこととなり緊張しています。就任に当たっては多くの皆様に直接・間接的に大変お世話になり深謝する次第です。特に広木前教授、病院長の森園教授や本学循環器科朔教授には多大なるご支援を頂きました。心よりお礼申し上げます。

私は第3回生であり、海外留学の約10年を除けば、本学で学び、育てて頂きました。ですから同窓会組織には早くからお世話になりました。医学部5年生の時に九州山口医科学生体育大会を主管（飯田博幸委員長）し会計担当でした。その流れで卒業後も同窓会組織の二内科委員として留学するまで努めさせて頂きました。そして帰国後には鳥帽子会主催の講演会（小児科広瀬先生座長）や鳥帽子会各支部講演会等を介して鳥帽子会会員との再会・交流をさせて頂き、さらに、筑紫病院へ移つてからは筑紫・筑後地区会員の皆様とは直接のおつき合いをさせていただけるようになります本当に有り難く感謝しています。今後、眞の意味での福岡大学筑紫病院としてのあり方を考えるときに病院内外の鳥帽子会員の役割は重要です。新病院構想を育てている今、鳥帽子会員主導で本学との連携を密にした構造改革が達成できるように各会員の皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

一方、入局した当時の本学二内科には多くのユニークな先生方がおられ、勉強その他に時間を忘れて意欲的に打ち込める環境が作られていました。私はその大きな流れに乗つて今日まで来ているように思います。その源流を作つてくださったのは言うまでもなく荒川前教授であります。その流れの中で育てられた（もししくは育つた）諸子の活躍はここに書くまでもないと思いますが、大事なことは鳥帽子会員にその流れの中心を泳がせてくださいり、そのことが形としてようやく表れてきたことです。この点に関して、荒川前教授は鳥帽子会への貢献度がもっとも高い先生であったと改めて感謝したいと思います。私はこの源流をさらに拡大できるように本学との関連を強化し筑紫病院で歩んで行きたいと思っております。会員の皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

「祝教授就任 – 筑紫病院の発展を祈って」

福岡大学医学部内科学第二 教授 朔 啓二郎（1回生）



浦田秀則先生の福岡大学筑紫病院第一内科教授就任、心からお祝い申し上げます。浦田君は、本学医学部を昭和55年卒業後、第二内科入局、大学院終了後、米国オハイオ州クリーブランドクリニックで高血圧の基礎的研究に

従事、ヒト心臓からアンジオテンシンII合成系に関わるキマーゼを同定し、その後もドイツに3年間留学し、研究を発展させ8年前に帰国しました。彼の研究は国際的に高く評価され、学者としての今日の地位を築いたと思います。彼に対する私なりの評価ですが、「研究のみならず、診療に教育にこれほど熱い奴はない」、このポイントです。外国生活が長かっただけに、大学病院の臨床医として取得すべき専門医試験に、40歳すぎて果敢に挑戦し合格、これはリーダーになるにふさわしい態度であっぱれと思っていますし、ヒトの心を動かす行動ですね。心臓カテーテル検査、血管形成術に積極的に携わるなど、彼は臨床医として必要なチャレンジ精神・感性・素質・カリスマ性を十分に内蔵しています。私が教授就任した時の医局長でした

が、このようにしてもらいたいという私の希望の実現に、粉骨碎身努力してくれました。研究者だから筑紫病院にはあわないとの意見はよくある事ですが、研究はすべての人間性を包括し、新たなプロジェクトを創出するため、それが出来ないでトップに立つことの方がおかしなことです。根っからの心臓病医ですので筑紫病院をさらに発展させるには彼しか無いと確信していました。また、医学部の教務委員会（学生の教務の話し合い）に筑紫病院から毎回出席するのは彼だけですね。これも高く評価されています。色々な意味で本当によかったです。

筑紫病院の今後ですが、研修必修化問題等考えますと、福岡大学病院と共生し、県内での医療基盤を強化するしかありません。福岡大学筑紫病院であって、医学部附属病院では無いのですが、福岡大学卒業生のすばらしい臨床研修、臨床研究の場として、また臨床各部門の責任者の養成の場として発展していただきたいし、福岡大学病院と人事交流を密にしてほしい。そのリーダーにふさわしい人格・風貌だと信じています。第二内科にはモチベートされた若い研究者・スタッフがたくさんいますが、浦田君に続くよう叱咤激励しています。

浦田くん教授ご就任おめでとう

福岡大学医学部小児科学 助教授

廣瀬伸一（3回生）



浦田君と私は福岡大学医学部の6年間とともに学んだ仲です。でもそれ以上に彼と私を親密にしたのは、1988年からアメリカ、オハイオ州クリーブランドで過ごした4年間です。私は蛋白質の糖鎖構造について研究をするべく当地のケースウエスタンリザーブ大に留学し

ました。このとき、浦田君はすでに循環器病のメッカ、クリーブランドクリニックで、研究を続けていました。まったく知らない彼の地でかつての大学の同級生がいてくれたことほど、心強いことはありませんでした。車の購入、アパート、電話、生活の術にいたるまで親身になって助けてくれました。

彼は当時、心臓移植に使われなかったヒト心臓を用いて、ある蛋白の精製を試みていました。その蛋白こそが、今の彼のメインテーマであるキマーゼだったのです。時には彼の家の庭

先でバーベキューをしながら、研究の話をしたものです。浦田君とは働く場所と研究内容は異なりましたが、私も留学前は生化学を勉強したこともあり、彼の研究の内容は非常に魅力的で有意義なものであることよく理解できました。そればかりでなく、彼の研究に対する真摯な態度と、それに掛ける情熱と夢が、ひしひしと伝わってきました。

その後、僕は帰国し、彼もほどなく旧東ベルリンにある研究所にキマーゼの研究をさらに発展させるため、統一後間もないドイツに留学しました。縁があるのか、私がドイツの学会に呼ばれる機会があり、彼を訪ねました。ポツダムへドライブの道すがら、当時なかなか難しかった遺伝子組み換えラットの作成を学びに来たものの、実際の研究はベルリンの壁崩壊の混乱でストップしていたと聞きました。凡人はここで失望し、挫折するのですが、彼は自ら研究を立ち上げ直し、その研究所をも蘇らせてしまつたのです。キマーゼへ向かってひたすら道を切

り開く彼は、困難さえ力に変えてしまったようです。

私などはつい目先のテーマや課題をこなすことに一生懸命になり、自分が追い求めている本来の夢や目標を忘れてしまいがちです。彼に触れると、いつでも夢を持ち続けることがいかに大きな力を与えてくれるのかを確信出来、活力が与えられるようです。こんな浦田くんが福岡大学医学部の教授に就任したことは、個人的にはもちろん、福岡大学の医学部の同窓生としても大きな喜びです。彼が指導にあたる後輩の医学生は、彼にとって、まさにわが子と同じような存在であるでしょう。子を知るに父に若くはなしと言います。福岡大学の良い点も悪い点も知っている同窓生の彼が、わが大学の医学生をそして医学部をすばらしい方向に導いてくれることを期待します。浦田君おめでとう。併せて、彼を教授として迎えた福岡大学をも祝福したい気持ちです。

同窓生交歓 No.1

人の通らない道

清永君は理論家で、弁舌爽やか。彼は世界で初めて、運動による降圧を科学的に証明した。この業績は我々同級生の誇りだけでなく、福大医学部の珠玉である。朔君は主席卒業者。今もその真摯な研究姿勢に変わりはない。ガリ勉タイプではなく、どこかに余裕を感じさせる雰囲気は独特なものがあった。あれから二十五年、私は今、この十月から、新生島根大学医学部初代の副院长に就任した。

ロバート・フロスト「森の中で道が二つに分かれていた。そして私は人があまり通っていない道を選んだ。」我々三人は恐らく、人の通らない道を選んだ。そして明日への希望を抱き、これからも歩み続けるだろう。(大平明弘記)

向かつて右から
清永 明(福岡大学スポーツ科
学部教授)
朔 啓二郎(福岡大学医学部内
科学第二教授)
大平 明弘(島根大学医学部
眼科学教授・附属病院副院長)



共に第一回卒業生
(於 料亭嵯峨野)

行事報告

国試激励会報告

理事 占部医院院長 占 部 嘉 男 (5回生)

94名（学生67名、OB27名）が参加して平成15年度の国試激励会が4月25日に天神の福新楼で行われました。国試合格発表日に合わせて行われるこの会は、数年前までは合格率低迷のため、さながら特攻隊の隊員を送り出すような悲壮感漂うものでした。しかし、学生および教職員の先生方の努力が実を結び、今年は新卒の合格率は九州でナンバーワンに輝きました。我々が卒業したころは「全国でワースト5に福大入る」と新聞に書き立てられました

が、良い成績だと記事にもなりません。しかし新聞というものは人のあら探しによっぽど好きとみえて、今年は「既卒の不合格者数トップクラス」と書かれたときには苦笑いをしたと同時に、烏帽子会としても既卒者対策という新たな課題を突きつけられたと思っています。学生とは親子ほどの年齢差はありますが、同じ道を目指すもの同士。OB OGの同窓生の方々の参加をお待ちしております。



国試合格発表日、
会場に駆けつけて
後輩を励ます合格
の先輩達

新入生歓迎会

理事・二田哲博クリニック院長

二 田 哲 博 (9回生)

平成15年5月20日（土）中央区天神の福新楼にて、福岡大学医学部、平成15年度新入生歓迎会が開催されました。今回は104名（OB26名、学生78名）の方々にご出席いただきました。最初緊張の面持ちで参加した新入生達も、高木会長の力強いご挨拶に始まり、たくさんの方から心温まるはなむけの言葉をいただくうちに次第に表情も和み、閉会時には一体感も生まれていたように思います。今後、新入生が実り多き学生生活を送るためにも、学生時

代を顧みつつ、OBの先生方の暖かいお力添えをお願いしたいと思っています。また、歓迎会の中で、医師国家試験の合格率アップのために、これからOBも積極的に参加していくこうという意見が多く聞かれました。今後様々な形で、ご協力ををお願いする事があるかと存じますが、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。最後に、お忙しい中、歓迎会の企画・運営に携わっていただきました先生方に、心より御礼申し上げます。

親子で参加の先輩の父と、その子の新入生

鳥帽子会から贈られた
お揃いのTシャツを着
て校歌斎唱

M4激励会報告

理事 笠外科・胃腸科医院副院長 笠 健児朗（12回生）

平成15年9月5日、福新楼にて本年度の4年生00代（入学年が2000年の学生）に対するM4激励会がありました。

実は、この会はいろいろ意味のあるものでした。朔教授が新任されたころ、国試合格率はとても悪く、医学部存続さえも危ぶむ御意見も聞かれておりました。そういう時期に平成12年10月28日、M6に対しての国試激励会が行われました。“同窓会が学生さんにできる事”と考え“タタミ”“円卓”“大広間”が必要とされ福新楼で開催しました。“M6に10月”で御気付きの通り同窓会でも急遽の事業でしたが、内容は大成功でご承知の通りです。そのおかげ（？）で、その後の国試の成績がいいのをまた御存知の通りです。

それで平成13年度より

M6 每年4月下旬・国試激励会

（前年度の国試発表日）

翌年3月中旬・国試慰労会

（本人達の国試終了日）

M4 每年9月上旬・M4激励会
(後期開始直後)

M1 每年5月下旬・新入生歓迎会
(九山終了後)

に多くのOB・OGの参加をお願いし、開催するようになりました。

平成15年9月5日にあったM4（00代）が、1年生の時に歓迎会を受けていない最後の学年となります。

会をしますと、学生も喜んでおりますし、又、驚くことに、学年全体で集まつたのは初めてだと思います。過保護と言われましても確実に効果を挙げつつあると考えております。

会費はいただいておりません。卒業直後の方も含め多くの卒業生に御参加いただきたいと考えております。御願いいたします。

医学部講座の再編成

医学部創設以来の主任教授の定年退職が相次ぐ平成10年ころ内科再編の動きが起り、平成12年4月、内科は五つの科に改編された。

更に平成15年4月には基礎系の講座も一部改編された。現在の医学部講座の構成は次の通りである。

医学部講座の構成

講 座 名	旧 講 座 名	主任教授	教 授	摘 要
解剖学	解剖学第二	宮内亮輔		
細胞生物学	生化学第二、解剖学第一	池原征夫		
生理学	生理学第一、生理学第二	今永一成	坂本康二	
生化学	生化学第一	黒木政秀		
薬理学	(同左)	桂木 猛		
病理学	病理学第一、病理学第二	岩崎 宏 菊池昌弘	坂田則行	
微生物・免疫学	微生物学、寄生虫学	永山在明		
衛生学	(同左)	畠 博		
公衆衛生学	(同左)	守山正樹		
法医学	(同左)	柏村征一	影浦光義	
内科学第一	内科学第一	田村和夫		血液・腫瘍・内分泌・糖尿病・感染・免疫
内科学第二	内科学第二	朔啓二郎		循環器・高血圧・代謝
内科学第三	内科学第一	向坂彰太郎		肝・胆・脾・消化管
内科学第四	内科学第二	斎藤喬雄		腎・膠原病・呼吸器
内科学第五	内科学(健康管理学を含む)	山田達夫	西丸雄也	神経・老年医学
精神医学	(同左)	西村良二		
小児科学	(同左)	満留昭久		
皮膚科学	(同左)	中山樹一郎		
放射線医学	(同左)	岡崎正敏		
外科学第一	(同左)	池田靖洋		
外科学第二	(同左)	白日高歩		
脳神経外科学	(同左)	福島武雄		
心臓血管外科学	(同左)	木村道生		
整形外科学	(同左)	内藤正俊		
眼科学	(同左)	大島健司	林英之	
耳鼻咽喉科学	(同左)	加藤寿彦		
泌尿器科学	(同左)	田中正利	大島一寛	
産科婦人科学	(同左)	瓦林達比古		
麻酔科学	(同左)	比嘉和夫		
歯科口腔外科学	(同左)	都温彦		
臨床検査医学	(同左)	小野順子		
救命救急医学	(同左)	田中経一		

会員寄稿**良医とは**

福岡大学筑紫病院外科 教授 有馬 純孝（特別会員）



かつての九州大学第一外科の図書室には第2代教授の赤岩八郎先生の「非善人即非良医」という先生の直筆の書が大きく掲示されていたのを思い出します。

曰く「善人にあらずんば良医にあらず」という意味です。今は教室の建物は壊されていませんがどういう意味か、その当時深く考えることはなかったように思います。

私も医師の教育に従事するようになって良医とは何か？どのように教育すれば良医が育つかと色々考えているうちに、前記の名句の意味が少し理解出来るようになっていました。広辞苑によると善人とは、善良な人と書いてある。善良とは、よいこと、特に性質が正直で温順なことと記載している。名句の意味が判りにくくなる。善人即良医としているところが重要なポイントだと思います。“非”を入れたところに重要な意味が内蔵されているのではないかと愚考しています。

古今をとおして医師に求められる資質は、ヒポクラテスの時代より色々言われており、患者さんの気持ちをよく理解し、信頼に足る識見と能力を備えて奉仕する人格を有する医師のことであろう。一般社会で言われる良医とは、医療を受ける側からみた医師像であり、医師同士間の良医はどちらかというと、臨床力とかけ離れた、論文数とか学会活動とかを重視する傾向がある。医療において最も大切なことは「患者の安全」である。切磋琢磨して医療技術を磨き、立派な臨床医となることが求められる。

最近の新聞に報道される医療事故の多くは、自分が目立つことを求めて、医療を受ける側に視点が向いていないことが大きな問題点である。まず、患者さんの訴えをよく聞いて迅速に対応する医師として信頼に足る識見と能力を備えていることが必要である。これらの事は、医学教育の根幹であり、医学的知識や技術を教えることはもちろんのことであるが、人と人との関係、病む人達を思いやる気持ちが自然とにじみ出るような医師を育てることが医学教育に求められている。

初めて患者と触れ合うさまざまな医療関係者へ 忘れられているあたりまえの事：10のルール

日本大学板橋病院 医員 重森 裕（24回生）

まえがき

3年前に初めて患者さんの前に立ち、自己紹介をした事を昨日のように覚えています。その時に、自分は他の諸先輩方と違って医療初心者であり、実力を持ち合わせていない。そんな僕が患者さんに対して出来ることは何だろう？

と、ずっと考えてきました。また、患者さんが「もう一度あの先生に診てもらいたい！」「また会いたい！」と、思われるものは何であろうか？研修医時代の様々な経験と患者さんと接してきて出てきた答えは、意外とあたりまえの事でした。しかしそのあたりまえな事が、実際



の医療の中で意外と出来ていないのもまたあたりまえでした。今回このような経験から、忘れられているあたりまえだけど大切な事を、ルールと題して、医師だけでなく様々な職種

の医療初心者、医療関係者、学生に合わせて作ってみました。

自分は、医学部を卒業してまだ3年目になつたばかりです。医者としては、まだまだ若輩で所謂ヒヨコちゃんです。しかしながら、医療の現場では最前線で働き、病院に居られる患者さんにとってベストの医療が出来るように頑張っています。今回のあたりまえのルールを一度は考えて、もしくは再考して、新たに今から医療に向かっていきませんか？

1：常に笑顔を忘れないように

毎日の疲れや当直明けで、疲れが溜まっているのはわかります。でもどんなに自分が辛いと感じる時でも、一番つらいのは患者さんとその家族です。そんな患者さん達へしてやれることはいくつかありますが、医療初心者の自分には何にも出来ません。そういうえば唯一できがありました。それは難しくありません。そう、子供の時から持っているあなたの届かない笑顔です。　常に笑顔を忘れないように

2：一日の始まりは挨拶から

晴れの日も雨の日も、今日という一日は始まります。出会った様々な人に、自分から挨拶しよう。挨拶しただけで何だか気分がすっきりします。お互いの気持ちよい朝のために、ぜひ挨拶を！　1日の始まりは挨拶から

3：言葉使い

言葉は標準語や堅苦しい尊敬語である必要はありません。ただ、やさしく思いやりをもって語りかけるだけで、方言であろうと、俗語であろうと、患者さんは理解してくれることが多い様です。ただ、唯一酔っ払いに関してはそのル

ールは効かない様ですが…

4：清潔な服装を

白衣が汚れて、灰衣になっている方はいませんか？　いくら中身が良くとも、初対面の方の第一印象は見た目で決まるみたいです。せっかくの中身が台無しです。清潔な白衣を着て患者さんに会いましょう。

5：よく話をしよう

医療現場では、意外と雑用が多くて、ついつい患者さんを後回しにしていませんか？　患者さんとその家族はいつも不安がっています。ただ単に雑談をするだけでも安心を与えることが出来ます。患者さんの目線に合わせて分かりやすく。それもあなたの大切なお仕事です。できれば、朝、夕の二回お話に行きましょう。

6：まず、動こう

人の命がかかっている仕事です。場合によってはまず行動に移してみよう。考えてみて判らないことでも、実際に動いてみると判る事も沢山あります。ただ行動をした後に、考えることを忘れずに。

7：患者さんにとってあなたは？

意外と忘れられている事、それはあなたにとっては患者さんは万人の中の一人、でも患者さんにとってはあなただけが唯一頼るべき人間。

8：医療をやる

医学生が学んだものは医学！　看護学生が学んだものは看護学！　技師さんが学んだのは技術！　ホームヘルパーさんが学んだのは介護学！　いろんな職種があるからつい自分の専門を頑張っちゃうけど、患者さんが望んでいるのは医療だよ。だから医療をやろう。

9：医療はチームだ

患者さんに良い医療を提供する為には、個々が思いやりがあって、十分な知識と熟練の技術を持ち、医療関係者各々が十分に連絡して患者さんを第一に考えることだろう。そのためにまず、時代に合わせた新しい知識を身につける事と、様々な職種の人たちと常に交流することだろう。一人で出来ないこともチームでやれば出

来ることが沢山ある。

10：同じ人間だから

ついつい頑張りすぎちゃって、仕事をやりすぎている方はいませんか？ 患者さんを第一に考える事はとても大切だけど、自分の体

も大切に。自分が元気だから患者さんに元気を与えることが出来る。あなたの身体を心配している家族がいますよ。時にはリフレッシュしよう。

医療とマジックによるボランティア活動

Dr. マジック 伊藤医院院長 伊 藤 実 喜（3回生）

いざ台湾へ

趣味で始めたマジックが、国際交流の主役になろうと予想もしなかったことでした。

医療とマジックで国際ボランティア活動（ブラジル、中国、タイ、フィリピン）を始めて10年、様々な体験をいたしました。マジックは言葉、宗教、民族、年齢等の壁を取り去り、世界の平和交流共通語として、NGO活動を実践出来た事も大きな喜びでした。この度、マジック歴20年を記念して、台湾の嘉義県東石郷副瀬村と阿里山周辺の2箇所で医療とマジックによるNGO活動（総勢10名）を行いました。2003年7月13日から18日まで、呉 坤忠（ゴ コン チュウ）氏「日本・ローヤルゼリー株式会社社長」のご好意で実現いたしました。今回は阿里山周辺長寿地区での健康調査、時に石蓮花という「幻の花」探索調査、そして現地の方々とのマジックによる交流会が大きな目的でした。

台湾の日本神に遭遇

医療器具とマジック道具を携えて約2時間で福岡国際空港から台北空港に到着、検疫でSARSのチェックを受けて、3車線の高速道路で約3時間最初の訪問地、北回帰線が走る嘉義県の石郷副瀬村に到着。この村には約100年前日本の植民地だった頃、森川清治郎巡査が派出所に赴任し、心優しい彼は子供に学問を教え、病人を看病し、飢餓には食べ物を与え、まさに国際NGO活動を堂々と実践したのです。貧しい村の生活を思い、日本国の増税政策に反対し、両国のはざまの中で彼は抗議の自殺をしま

す。村人は悲しみ、彼の功績は受け継がれ、約20年後、村の周辺でコレラが発生、世話になった村長が森川の夢を見ます。「環境衛生に注意しなさい」お告げに従うと伝染は鎮まり、村人は森川を神にすることを決めたのです。小さな廟の「富安宮」に“義愛公”として祭られていきました。すでに100年前に国際交流の原点を実践した大先輩が存在していた事に感動いたしました。村人の熱烈な歓迎を受けて、この「富安宮」の前で心優しい村人に私のマジックを披露できた事は大きな喜びでした。森川巡査に感謝、村人に感謝です。美味しい海鮮料理で笑いとマジックの交流は深夜まで続きました。

阿里山で医療検診とDr.マジックショー

美味しい「朝がゆ」を食べて、いざ阿里山（2663m）へ出発、阿里山は台湾最高峰“新高山（3590m）”の支峰、1日1往復の森林鉄道で約3時間30分の大自然パノラマショーに大満足！車内では突然のDr. 伊藤の“ふれ愛マジックショー”で大拍手！雲海を眺めながら霧の終点に到着。

阿里山周辺は長寿の地としても有名で、今回も長寿の調査も大きな目的でした。医療検診とマジックショーの楽野村小学校に続く沿道には歓迎の大きな垂れ幕が数百本、“Dr. マジック熱烈大歓迎”の文字に感動！県知事と国会議員のお出迎えを受けて、現地のドクター3名と検診開始、“膝が痛いです”と高齢の方は日本語が堪能でした。60歳以上約50人の健康診断で血圧ほぼ正常範囲正常、糖尿なし、痴呆なし、明るく陽気、坂道による腰膝の変形痛、紫外線

による白内障、持参した治療薬が無くなり約4時間で検診終了。特に食生活で、「石蓮花」を常用している事は大きな発見でした。石蓮花(Echevaria glauca)は3年に一度だけ、人の目に触れることなく淡い紫色の花を咲かせるため「幻の花」と呼ばれ、現地の人々がその花や葉を食する習慣があることから、長寿と関連が注目され、血糖値降下作用、脂質代謝改善作用、抗炎症作用、免疫賦活作用などの研究が報告されています。時に、糖尿病とガンに有効である事が確認され、注目をあびています。また、台湾ではSARS発生パニック時、SARSコロナウイルスが体内細胞に入れないたんぱく質「ポリペプチド」が石蓮花に含まれている事も「華西天然薬物研究所」で確認され、実際、阿里山地区ではSARSの感染者は一例も報告さ

れていませんでした。今後はSARSの救世主になるかも?私も石蓮花のサラダと搾り立てのジュースを美味しく頂きました。

翌日は楽野村の方々との「ふれ愛ショータイム」です。まず地元民族の歌と踊りでスタート、小学生のダンスとカラオケショー、日本から浴衣姿で“炭坑節”そしてDr. マジックショータイム、持参したバスケットトドリュージョンに大歓声!約200名の子供もお年寄りも笑顔、笑顔、笑顔。来年の再会を願いながら日本と台湾の交流の歓声は阿里山にこだまして鳴り響いていました。

疲れ切った帰りの中華航空便の中で楽しい6日間の思い出を振り返りながら、来年の台湾でのNGO活動を夢みていました。



左は嘉義県知事
中央は呉坤忠社長
右 筆者



石蓮花の前で
マジックショー
の筆者

支部便り

甘木朝倉支部発足

甘木朝倉支部幹事・田邊医院院長 田邊庸一（3回生）

一期生の高良さんより甘木朝倉も卒業生が増えてきたのでそろそろ支部を創ろうかということで、この度長年お世話になっていた筑紫支部より甘木朝倉支部を分離発足することになった。2003年5月の発足にむけて2003年2月19日に支部発会臨時総会を行い支部の設立、支部の名称、支部会則案の審議、設立準備委員会による役員案、会費、設立日などについて協議し最後に、支部長になる古林さんより挨拶をしてもらい酒宴となった。

2003年5月10日〔土〕センチュリーヒルズホテルにおいて設立総会を行った。高木同窓会会长、権藤筑紫支部長及び城戸さん、福岡大学筑紫病院支部の浦田君、三原君、東君に出

席頂き、会員は正会員21名（18名出席）、甘木市の岡部先生（整形外科）、夜須町の丸田先生（2内科）も準会員（理事会に承認されたものではないが）として出席され、長谷川、竹下先生を加えた総勢28名にて盛会となった。高木会長以下福岡方面からの先輩がたに3次会まで付き合って頂き皆喜んでいた。残った我々は見送った後4次会へと突入した。設立総会が無事に終わっての反省点は、総会が終わって気がゆるみ、言いたいことを酒の勢いで言ってしまったこと、総会から2,3,4次会と予算内で支払いは済んだが全くお金が残っていないことである。今後支部活動を活発におこない発展させていこうと考えている。

支 部 長：古林修一
副支部長：中林正一
幹 事：田邊庸一
副 幹 事：上野裕史
会 計：東島 正
監 査：香月直樹



広島支部総会の報告

広島支部長・老人保健施設コスマス園施設長 横手祐司（3回生）

平成15年6月21日（土）、広島全日空ホテルに於いて福岡大学医学部同窓会広島支部（福大医広島支部）の第4回支部総会を行いま

した。その報告を、福大医広島支部のお知らせを兼ねてさせていただきます。はじめに、簡単にですが、福大医広島支部の歴史についておさ

らいをさせていただきます。福大医広島支部は平成8年10月22日に初めて設立されました。設立と同時に開催された第1回支部総会には白日教授と高木会長を来賓としてお招きし、総会を盛大にやりました。その後は、いろいろ役目は決めたのですが、皆多忙にてお世話係が私一人のため、設立の残務整理（主に金銭出納ですが）に追われて、やっと残務が片付いた平成12年より年1回の支部総会開催を目指に、医学部同窓会会員同士が連絡を取り合って平成12年5月13日、平成13年11月26日と、今まで計3回の支部総会を行いました。

さて第4回支部総会ですが、出席者は19名でした。今回は平成15年4月1日付けで島根医科大学より広島大学大学院医歯薬学総合研究

科展開医科学専攻病態情報医科学講座（法医学）－なんと長い名前だ！－の教授として赴任された木村恒二郎教授（第5回生、昭和57年卒）に御出席をいただきました。私事ながら、木村教授と私は、福大医学部の学生時代には卓球愛好会の先輩後輩として、また卒業後は彼が在籍していた九州大学法医学教室に訪ねた事があるなどの付き合いがあり、再会が大変嬉しく思われました。教授には近況と広島における法医学の現況についてご講演をしていただきました。広島県での法医学関連事件や歯科医師会との連携のお話など、日頃直接に法医学のお話を伺う機会は少なく、大変興味深いお話をしました。その後は、出席者の各々が近況の報告をして盛会のうちに支部総会を終了しました。

なんとか福大医広島支部を維持してこれたのは陰になり日向になり支えてくれた会員の皆様のおかげだと感謝しております。今後は福大医広島支部の更なる発展を目指して会員同士の連絡を深めていきたいと考えております。広島に来られる機会などございましたら、是非一度お声をおかけください。



佐世保支部会から

佐世保支部長・山川医院院長 山川 裕（4回生）

佐世保支部の山川です、以前から時々他大学医学部卒業生との交流を行なっていましたが、今年に入ってから久留米大学医学部同窓会との協賛講演会及び慰労会を行なう事ができました。やはり久留米は歴史がありご高名な先生方がそろわれご挨拶を行なうのにそれなりに緊張致しました。しかしながら久留米の先生方から気さくに声を掛けて頂いたり、ご紹介をいただいたり、意外にも予備校時代の知り合いと久方

ぶりに顔を合わせたりとゆっくり楽しくと過ごすことができました。

当同窓会の会員の方も比較的よく接觸のある近場の先生方ということでお互いにご存知の先生方ばかりの様で皆さん和やかに談笑されていました。実りのある会合をおこなえたのではないかと思われます。ただ私は酒がまったく飲めませんので酒席での対応がちと困ります。まったく酒の飲めない方で宴席の対応をどのよ

うになさっているか存知の方はぜひお教えいただきたい。

同窓会活動を見ると年齢的にも役職を持った会員も多く、都合のすりあわせが大変でなかなか一堂に会してとは行かないようです。今回の集まりでも圧倒的に多くの会員がおられる久留米大学でも同様の事情があるようですが、世話役としては会費の徴収や連絡に困る部分もあり、どのようにしたら皆さんに楽しく集まっていた

だけるか頭を捻っていますがなかなか妙案が浮かびません。

今年は卒業生の子供さんが多く入学されたとの事、数年もすれば彼らも一人前、いよいよ次の世代が育ちつつあるのが実感として感じられ、うれしくもあり、また卒後二十年もたつのにまだ半人前な自分を見ると寂しくもあります。

筑後支部の近況について

筑後支部評議員・宿里医院院長

宿里 芳孝（10回生）

同窓会筑後支部は久留米、大牟田三池、八女筑後、柳川山門、小郡三井、浮羽、大川三猪地区の7地区に分かれています。

当支部の開業医は40名を越えており、勤務医は聖マリア病院（久留米）、久留米大学病院、新古賀病院（久留米）、川崎病院（八女）などの総合病院があり、約100名にのぼっています。

そして、当支部の取りまとめは、津村和孝支部長（4回生）を始め、渡辺大介副支部長（4回生）、朝倉敏明評議員（8回生）、さらに支部の黄門様として大城昌平先生（1回生）に顧問として就いていただき、行われております。

やはり、支部の大きな行事といえば、同窓会支部総会でありまして、当支部では毎年6月に上記役員を中心として、支部総会をハイネスホテル久留米にて開催しております。

例年高木同窓会会长や重田副会长に来ていただいておりましたが、今年度は権藤公和理事（1回生）と田野茂樹理事（6回生）に駆けつけていただきました。支部総会には初めて来ていただきました両先生でしたが、終始和気あいあいとした雰囲気で医学部、付属病院、同窓会本部の現況などを話していただきました。

また、支部総会では講演会を必ず行っていますが、今年度は平成15年4月に高木病院小児科部長に就任されたばかりの小川厚先生（同窓会本部理事、母校小児科併任講師）に、「教

育と医療の連携」――今、学校で何が起こっているのか】という演題で、御多忙のところ快くお引き受けいただきました。

このように支部総会では本部の情報、講演会、新たに支部会員になられた開業医および勤務医の紹介などを行ったのちに、懇親会に移りました。

今年度は1回生から26回生までの先生計27名の会員の出席がありました（例年25～30名の出席があります）、出席してみるとなかなか会えない大学時代の人とも出会えるかもしれませんし、支部総会に出席していただくことで、支部の開業医と勤務医の先生方の連携・懇親にも大いに役立つものと思われます。よって、もっと多くの会員の先生方に参加していただきたく、当支部からの補助を大幅に増大し、勤務医の筑後支部総会参加費は、何と（研修医も、そうでない先生も）一律2000円と激安にしておりますので、初めての方もふるって参加していただきたいと思います（ただし、開業医は8000円）。

最後に、当支部では本部年会費の支部での徴収率100%を依然として維持しております。これもひとえに筑後支部会員の皆様方のご協力の賜物と感謝しております。この場を借りまして御礼申し上げますとともに、筑後支部の近況報告とさせていただきます。

特集 クラブ生まれて30年

サッカー愛好会の30年

初代マネージャー 蝶崎整形外科医院院長 蝶 崎 隆 男 (2回生)

福大医学部サッカー愛好会（以下サッカーチーム）は3人からスタートした。昭和48年春小学生が入学してまもない頃、2人の男が声をかけてきた。「君は高校時代サッカーをやっていたそうだが、我々と一緒にサッカーチームを作ろうじゃないか。」二つ返事でOKした。その二人は山下亘（初代キャプテン）と潤田裕二であった。苦難と歎びの道の始まりであった。

当時、サッカーはまだ今ほどメジャーなスポーツではなく、Jリーグの前身である、ヤンマーヤや日産やフジタ等の企業チームが日本リーグを戦っていた。日本の活躍と言えばメキシコオリンピックで銅メダルを得た事くらいである。

話をサッカーチームに戻そう。新しいクラブを作るのには何をしたらよいか。多くの問題が我々の前に立ちはだかった。その中のいくつかを紹介しよう。

1. 規約の作製

医学部事務室に行き、サッカーチームを作りたいと言うと、本学学生課のある人に逢いに行けとの指示。例の3人で学生課に向かう。我々を迎えてくれたのは権藤康熙さんであった。何と恐

そうな人だと思った。実際、小生の話を聞く態度が悪いと一喝された。それから30年の間、我々のみならず、医学部関係者とくに運動部の良き理解者としてお世話になる方との出会いであった。

規約は数回の書き直しの上、無事に出来上がった。きびしい指導のもとで・・・

2. 部長の選出

当時クラブの部長をされてなく、ヒマそうな（失礼）方をと、色々物色し白羽の矢が立ったのは解剖学の宮内先生であった。先生のお部屋を訪ね、サッカーチームの部長を引き受けて下さいとお願いした。その時の先生の目を丸くした様子は今でも忘れられない。その後、健康管理科の井上先生を経て現在は放射線科の岡崎先生にお世話になっている。

今でもよく覚えているのは、コンパの度に井上先生が言っていた事。「お前達、頼むから私の前でコップ酒の競争をするのは止めてくれ」。大酒飲みのそろったクラブであった。

3. 練習場の確保

学生2万人の大所帯の福大に、余ったグラウ



ンドなどあるはずがない。最初は本学ラグビー場横の三角形のスペースで練習をしていた。そこが使えない時はひたすら走る。時々平和台の練習場を借りて通ったりもした。そのうち、アニマルセンター裏の荒地に目をつけた。大きな石のゴロゴロしたただの荒地である。当時建物の工事をしていた業者に頼み、スコップやら、ツルハシやら一輪車を借り、毎日毎日石拾いと整地を続けた。今ではなつかしい思い出であ

る。

その他、合宿の事、九山、西医体の遠征、皆で行った屋久島への旅、数え上げたらきりのない楽しい思いがある。最近は後輩達もがんばっている。平成13年度の九山大会では、3位に入賞している。少し鼻が高い。

最後に、6年間サッカーを愛し続けた青春の日々。一緒に過ごした仲間達は小生の一生の宝である。

医学部剣道部生まれて30年

医学部剣道部顧問 松 永 彰（3回生）

医学部剣道部（愛好会）は、1973年に2回生の方々により結成され、今年30周年を迎めました。顧問（部長）の先生方として、初代は解剖学の故和佐野武雄名誉教授、2代目は衛生学の江崎廣次名誉教授、3代目は泌尿器科学の有吉朝美名誉教授に、それぞれ多大なご尽力を頂いてまいりました。また、福岡大学本学の剣道部監督の故金子誠教授、瀧田伸吾教授、緒方健治先生には、医学部剣道部の監督もお願いし、日々の練習から大会のご指導まで、結成当時から現在に至るまで大変お世話になり、心より感

謝致します。

平成15年8月30日には、剣道部創立30周年記念・有吉朝美教授退任記念パーティーが催されました。この会には有吉先生、瀧田先生、緒方先生を囲んで、OB・現役部員を含めて50名以上が集まり、昔話に花を咲かせ楽しい時を過ごしました。写真は、その時のものです。3回生の私が入部した頃は学内に決まった練習場がなく、金子先生のご尽力で長住の誠心館という道場を使用させて頂き、福大から長住まで剣道具を担いでぞろぞろ歩いて練習に通っていました



た。帰り道ではかなりの頻度でアルコールが入っていたように記憶しています。私自身は、剣道を含めスポーツの才能は全くなかったのですが、人数が少ないとキャプテンを務めたこともあります。特に3?4年生の頃はかなりの練習量をこなしていたように思います。また、一時は医学部入口すぐ横の空き地（現在は卒業植樹で木が植わっている）を道場代わりに小石を掃いて除き屋外で練習した時期もあり、懐かしい思い出になっています。また、部員数も団体戦を

行えるぎりぎりまで減った時期もあるようですが、現在、医学部剣道部は現役部員20名を越え、非常に充実した倶楽部に成長しています。今後は、西医体でも上位入賞が期待できると考えます。自分の子供のような年頃の現役部員と向き合い話をしている時、30年の時の流れを感じ、彼らにも剣道を含めて自分が過ごした楽しく、そして充実した福岡大学医学部での学生生活を過ごしてほしいと願います。

準硬式野球愛好会の門出

木庭耳鼻咽喉科 院長 木 庭 一 浩（4回生）

まず最初に、野球愛好会の創設者としてまた初代キャプテンとして、多大なる努力と功績を挙げられた故吉浦光三君と春の合宿いつもお世話して頂きました故外薗恵一郎先生（外薗恵介君の御尊父様）に対し、改めて感謝の気持ちと御冥福を衷心より申し上げます。

1972年（昭和47年）、一期生として入学した吉浦君と私は、予備校時代に筑後川河川敷で野球をして楽しんだ仲間であり、入学早々どちらからともなく野球部を創ろうということになりました。幾度となく大学と交渉を続け医学部準硬式野球愛好会としてこの年発足したのです。確かに医学部愛好会としては第一号ではなかったかと記憶しています。しかし、それからが多くの問題が山積していました。部員の募集、スポーツ店の選択、道具購入の支払い、練習場の確保等、中でも練習場の確保ですが、福岡大学には広大なキャンパスがあるものの、我々愛好会が使用できる練習場など皆無で、仕方なく駐車場や体育館の裏のスペースを利用し練習をしたものです。何しろ砂利の上の練習で、イレギュラーするボールが体のあちこちに当たり痛い毎日でした。ある日、吉浦君は、市民球場を借りるために早朝より区役所へ出かけ、大変な努力を続けてくれました。しかし、いつも予約が取れるわけではありませんが、ある程度コンスタントに普通の練習ができる場所がほしかったのです。そのうち、本学のラグビー部

のグラウンドの横で邪魔にならない程度の練習ができるようになり、またラグビー部の練習終了後にシートノック、・フリーバッティングをしたものでした。諸問題をどうにかクリアでき、翌年の九山大会への夢を抱き日々練習に励みました。

「九山のまえに合宿をしよう」と、キャプテン吉浦君の提案に全員一致で決定。当時ロッテオリオンズが春のキャンプで使用していた湯之元球場ではどうかと、外薗君からの提案で合宿場も決まり、これ以来外薗先生には一方ならぬお世話を受けることになりました。我々の合宿の時期は、ロッテのキャンプの終了直後だけに、球場は完璧なまでに整備され、その“美しさ”に一同感激した事を鮮明に覚えております。宿は、当時国鉄の保養所で値段の割には結構な御馳走と、湯の華一杯のある温泉の古びた旅館でした。球場は、この宿から歩いて約5分の所にあり、合宿が始まるとまず早朝ジョギング、入念な体操、朝食、午前の練習、昼食、午後の練習と一日5~6時間の練習をこなし、充実感を味わうのも束の間、3日目には疲労困憊で声も小さくなり、足を引きずる人も次第に増える始末。なにしろ合宿に参加した人は6名で、フリーバッティングではピッチャー、キャッチャー、バッターで3名、残りの3名で守備に着くわけですから、ファールでも打とうものなら罵声が飛んできたものです。遂に、バッテ

イングができなくなりました。7~8本用意したバット（当時金属バットは使用禁止）全て折れてしまったのです。甲斐保君は、宝物のように大事にしていたキャッチャーミットとノックバット（ロッテオリオンズがリーグ優勝したとき、外野のフェンスを越えてロッテのベンチに置いてあった醜聞捕手のミットとノックバットを拝借したもの）を我々のチームに寄付してくれましたが、そのバットまで折れてしまい、急遽バットを購入するために鹿児島市へ出かけたと記憶しています。楽しくもあり辛くもあった合宿も終わり、皆それぞれ満足感と自信（？）を持ち、春には新メンバーも加わり、意気揚々と九山大会へ参加したのです。初戦は長崎大学、山口県の小野田球場、昭和48年5月3日、午前11時3分、福大先攻で試合開始。自信に

満ち溢れていた我々は、回が進むにつれ自信は見事に打ち砕かれ、7回コールドゲーム。8対0の完敗でした。試合終了後、泥だらけのユニホームを着替えることもなく、しとしと降る春雨の中を皆無言のまま帰路についたのです。このようにして医学部準硬式野球愛好会は苦い経験を味わい、互いにリベンジを約束し、チームの結束を更に強固なものにしたのです。



硬式テニス愛好会生まれて30年 —あー！年とったもんだー

咸宜会 日田中央病院 副院長 鬼木 寛二（1回生）

あーもう硬式テニス愛好会が生まれて30年が経ってしまったのかー！思えばついこの前のような気がしていたが、いつの間にかその頃の兵はおじさん、おばさんになってしまっていた。

昭和47年4月入学後権藤英資君（現OB会長）、権藤公和君（初代キャプテン）、菊池宏樹（未だに現役）等数名にて発足した愛好会（テニス部は本学のみで他は全て愛好会で、愛好会規約を本学事務局に提出しなければならなかった）は経験者は1人（菊池君のみ）だけであった。そこに緒方東君（緒方周君の兄さんで、高校時代は九鬼選手等とオーストラリアにテニス留学したことのあるプロ級経験者）が入会し、それから徐々に入会者も増えた。

私が入会したのは約1年後で、やはりテニスというものは初めての経験であった。中学時代は野球をしていたのでテニスをはっきりいってなめていました。ところが緒方東君のテニスを見、一緒に練習をし、テニスがこんなに恐ろしいスポーツかと初めて知りました。当初はテニスコートもなかったので平和台のコートや九電のコートに皆でよく授業をさぼって練習を行っていた。あー！あの頃が懐かしい。

そうしている内に病院の裏にテニスコートらしきものが5面（1面は軟式庭球兼バレーボール用）出来たが、全面赤土で雨が降ればぬかるみ状態でとてもテニスコートとは言えない有り様だった。そこで事務局に「何とかしてもらえませんか」とお願いに行ったところ（他の愛好

会も練習場もなく練習していたので贅沢とは思いましたが) 事務局は「あれは単なるレジャー施設であってテニスコートではない」との返事でした。頭に来た我々は会費(この頃は会員が約50名程いました)を集めトラック1台分の砂や、ネット用ポールを固めるセメントを購入し、工事用エンジン付きローラーをリースして整地し、何とかテニスが出来るようにした。また練習用の壁打ちが無かったのでコートの外の草むらを整地し、厚板を沢山購入(白石君の計らいで)して約3×5mのボードを二つ造り、夕方暗くなつて数台の車のヘッドライトを照らし、その二枚のボードをボルト・ナットで合わせて3×10mの壁打ち用ボードを皆で造った。完成時にはみんなで万歳をした思い出もついこの前のように思える。

(施工技術者: 1回生 浅川(大城)、鬼木、菊池、権藤(英)、権藤(公)、杉山、瀬知; 2回生 江下、白石、助広、中林、原、松岡; 3回生 浅川、飯田、田中、蓮尾、稗田; 4回生 緒方、黒田、伊藤(池田)、友成(麻生)等の面々)

そしていよいよ西医体、九山に出場するようになったが、残念ながら良い成績はなかった(ような気がする・・・)。「うん、参加することに意義がある!」と納得(?)しつつ帰ってきたものだった。「あー! 軽井沢の合宿は楽し

かった一」。菊地君、緒方兄弟(兄の東君は医学部を中退して、本格的テニスの道に進んだ)以外(?)は「あーあのプレーはおしかった、悔しいなー」などと言った思い出は全くない。もし他に思い出がある者がおられるならば「失礼!」。

卒業してから、小生は産婦人科教室に入局した。管理棟3階から練習しているのを見てはうずうずしてよくテニスをしに行ったものだったが、多忙となり徐々に遠ざかってしまった。

その後、医学部硬式庭球愛好会OB会を発足させ会長を10年勤め、愛好会顧問であった初代整形外科教授である高岸先生が定年退職されるにあたり、謝恩会を平成2年10月14日に開催して、小生も現OB会長である権藤英資君にバトンタッチをした。

我々が去った後は、嬉しいことに後輩たちがテニス愛好会を存続させてくれており、今では立派な戦績を上げてくれているようで頗もしい限りである。

福岡大学医学部硬式庭球愛好会永遠なれ!

最後に愛好会発足当時より大変お世話になった初代眼科教授である増田義哉先生が、去る平成15年7月に他界されました。ご冥福をお祈り致します。



キャンパス便り

西医体の結果について

西医体委員長 尾崎 勇 (M4)

先日第55回西日本医学生体育大会が無事終了しました。

最初に、今回の西医体において、協力していただいた、先生方、OBの先生方、事務課の方々本当にありがとうございました。西医体委員長として至らない部分が多くあり、何かとご迷惑をおかけしました。大会前・大会中にはたくさんの方から御意見、御提案を頂きました。その1つ1つがこの大会を成功に導いたのだ、と私はいま確信しております。

今回の西医体においてたくさんのハプニングがあり、当初不安でいっぱいでした。エントリミス、宿泊手配ミス、保険など等です。しかし、各サークルのキャプテンの協力のもと、これらの困難を乗り越え無事に大会を終えたことを心よりうれしくおもいます。

今年の西医体の結果についてですが、各サークルが精一杯努力した成果が発揮されたと思う。ゴルフ部門で個人第6位の光武君(M3)、剣道部門で新人戦個人ベスト16の松本君(M1)、空手部門で個人ベスト16の小牧君(M4)、水泳部門で50m平泳ぎ第8位決勝進出の中島さん(M4)、弓道部門で個人決勝進出の万江さん(M3)など多くの選手が好成績をおさめてくれました。また団体戦でサッカー部

がベスト8に入りました。この他にも多くの選手が活躍しました。

またサークルによっては反省点も多くあり、それらを活かし来年もっといい成績をおさめてくれることを期待します。

私この一年間西医体委員長を務めて、福岡大学の西医体という組織について、いろいろと感じることがあります。それは私が感じることというよりも、私個人の反省でもあります。

私が考える学生の組織とは、独立し責任ある行動をとらなければならないのですが、私が勤めた西医体は形式上のことしかできませんでした。それは私の統率力に問題があったと思います。事務課の方々に指示を受けてからしか仕事をこなせませんでした。私はこの反省を来年に活かし、よりよい西医体の組織作りにつとめたいと考えております。そしてこれから福岡大学医学部のサークル活動がより活発になれるよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、この一年間この頼りない西医体委員長についてきててくれた各サークルのキャプテンの皆さん、いろいろと指導をしてくださった事務課の皆さん、先輩として暖かく見守ってくださったOBの皆さん、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

サッカー部より 宮原大輔(M4)

今年は福大医学部サッカー愛好会創立三十周年という節目の年であり、好成績を残そうと部員一丸となって大会に臨みました。優勝は出来ませんでしたが、何とかOB諸兄に顔向けてできる結果となり正直ホッとしています。それと同時に、準々決勝では逆転負けを喫し非常に悔しい思いをしました。この悔しさはいずれ優勝する事で晴らしたいと思います。色々と応援して下さった皆様、本当に有り難うございました。これからも宜しくお願ひします。

1回戦	産業医大	2-0
2回戦	奈良医大	2-2 (PK 6-5)
3回戦	金沢医大	1-0
準々決勝戦	久留米大	1-2



福岡大学医学部同窓会資料

平成14年度収入支出決算

区分	科 目	14 予 算	14 決 算	14年度決算予算比較
収 入	繰 越 金	9,000,000	9,191,109	▲191,109
	会 費 収 入	19,177,000	23,698,168	▲4,521,168
	協 賛 金 収 入	0	19,650	▲19,650
	手 数 料 収 入	920,000	815,722	104,278
	雑 収 入	110,000	1,158,532	▲1,048,532
	預 り 金 収 入	122,000	233,412	▲111,412
支 出	積 立 金 繰 入	0	0	0
	仮 受 金	0	2,456,000	▲2,456,000
	合 計	29,329,000	37,572,593	▲8,243,593
	給 与	4,660,000	4,514,641	145,359
	旅 費	2,040,000	1,801,965	238,035
	事 務 用 品 費	240,000	402,356	▲162,356
出	印 刷 費	2,209,000	1,633,144	575,856
	通 信 運 搬 費	1,569,000	1,229,199	339,801
	設 備 工 事 費	200,000	149,083	50,917
	什 品 備 品 費	500,000	132,842	367,158
	事 業 費	7,210,000	5,051,025	2,158,975
	会 議 費	1,330,000	791,358	538,642
支 出	公 租 公 課	70,000	70,000	0
	雜 費	3,632,000	6,304,723	▲2,672,723
	預 り 金 支 出	122,000	208,432	▲86,432
	引 当 金 積 立	2,000,000	2,000,000	0
	仮 渡 金	0	2,456,000	▲2,456,000
	予 備 費	3,547,000	0	3,547,000
	合 計	29,329,000	26,744,768	2,584,232
	収 支 差 引	0	10,827,825	▲10,827,825

平成14年度残金処分

残 金 額 (収 支 差 引 額)	10,827,825円
◆ 次 年 度 繰 越	7,827,825円
◆ 事 業 積 立 金 積 立	3,000,000円

平成14年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前 年 度 より 繰 越	85,441,607	3,054,342	4,005,921	92,501,870
本 年 度 増 加 額	5,000,000	0	2,000,000	7,000,000
本 年 度 受 取 利 息	332,949	7,623	1,121	341,693
本 年 度 減 少 額	0	0	0	0
本 年 度 未 決 額	90,774,556	3,061,965	6,007,042	99,843,563

平成14年度財産目録

平成15年5月31日現在

	一般会計	特別会計	合 計	特別会計内訳		
				事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金
I 資産の部	12,371,985	99,843,563	112,215,548			
1 流動資産	12,224,201	99,843,563	112,067,764			
①現預金	10,827,825	99,843,563	110,671,388	90,774,556	3,061,965	6,007,042
振替口座	144,015	0	144,015			
郵便通常貯金	5,227,109	0	5,227,109			
郵便定期貯金	0	3,593,940	3,593,940	3,593,940		
普通預金〔福銀〕	5,456,701	20,004	5,476,705		20,004	
定期預金	0	96,229,619	96,229,619	87,180,616	3,041,961	6,007,042
福岡銀行	0	79,387,030	79,387,030	70,338,027	3,041,961	6,007,042
福岡シティ銀行	0	16,842,589	16,842,589	16,842,589		
現金	0	0	0			
②未収金	23,480	0	23,480			
③有価証券	0	0	0			
④棚卸資産(同窓会グッズ)	1,372,896	0	1,372,896			
2 固定資産	147,784	0	147,784			
①有形固定資産	0	0	0			
②無形固定資産	147,784	0	147,784			
II 負債の部	0	0	0			
III 正味財産(Ⅰ+Ⅱ)	12,371,985	99,843,563	112,215,548			
IV 前年度末財産	14,392,379	92,501,870	106,894,249			
V 増加額(Ⅲ-Ⅳ)	-2,020,394	7,341,693	5,321,299			

平成15年度事業計画

項目	摘要	必要経費 (A)	科目内訳					平成14年度 (B)	比較 (A-B)	備考
			事業費	印刷費	通信運搬費	会議費	雜費			
会報の発行	印刷代：春240×3,800部= 912,000 秋240×4,400部=1,056,000 封筒代： 15×9,000枚= 135,000 郵送料：春180×3,200通= 576,000 秋180×2,600通= 468,000	3,147,000		2,103,000	1,044,000			3,017,000	130,000	入会費、学年会費 請求時に、秋号を 父母にも配布
総会の開催	総会準備会費	200,000	200,000					200,000	0	
支部活動援助	講師招勧援助費：50,000×12支部=600,000 支部活動費：2,000×500人分=1,000,000	1,600,000	1,600,000					600,000	1,000,000	新設(支部活動費)
研究奨励賞	5件以内	1,500,000	1,500,000					1,500,000	0	
学生対策	新生歓迎会：900,000(Tシャツ含む) M4激励会：800,000 国試激励会：800,000 国試慰労会：400,000	2,900,000	2,900,000					3,400,000	▲500,000	BSL用長衣「白衣贈与」事業に移管
白衣贈与	BSL用長衣、短衣：9,000×110人=990,000	990,000	990,000					0	990,000	新設(BSL用短衣)
国試対策費	国試対策費：200,000 副担任会議：250,000 国試応援費：200,000	650,000	400,000		250,000			650,000	0	
支部祝儀贈与	支部発足：50,000×2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000					400,000	0	
学生行事援助	西医体、全医体、医学祭援助：400,000 学生行事への参加：100,000	500,000	500,000					500,000	0	
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×3=60,000	60,000	60,000					60,000	0	
グッズ作製	グッズ作製	500,000					500,000	0	500,000	新設
会員名簿の発行	(今年度は実施せず)	0						0	0	3年毎、次回は16年度
パンクマニュアルの発行	印刷費：1,300×3,400部=4,420,000 郵送料：240×2,800部= 672,000 編集諸経費：10,000×20人= 200,000	5,292,000		4,420,000	672,000		200,000	0	5,292,000	4年毎、次回は19年度
奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与	1,000,000	1,000,000					0	1,000,000	不定事業から本事業に移管
合 計		18,739,000	9,550,000	6,523,000	1,716,000	250,000	700,000	10,327,000	8,412,000	

平成15年度収入支出予算

区分	科 目	15 予 算	15 摘 要	14 予 算	14・15年度 予算比較
収入	繰 越 金	6,700,000		9,000,000	▲2,300,000
	会 費 収 入	20,885,000	入会費: 49,880 × 95 = 4,738,000 学年会費: 9,930 × 500人 × 0.8 = 3,972,000 年会費: 9,930 × 1,589人 × 0.6 = 9,467,000 過年度会費: 1,000,000	19,177,000	1,708,000
	協賛金収入	1,000		0	1,000
	手数料収入	800,000	紹介手数料: 三井30,000 集金手数料: 三井890,000	920,000	▲120,000
	雑 収 入	600,000	Tシャツ売上代: 100,000 その他: 10,000	110,000	490,000
	預り金収入	240,000	給与源泉徴収税: 8,200 × 12月 + 12,000 × 2回	122,000	118,000
	積立金繰入	5,292,000		0	5,292,000
	仮 受 金	0		0	0
支出	合 計	34,518,000		29,329,000	5,189,000
	給 与	4,660,000	職員(給与: 130,000 × 12月 + 賞与120,000 × 2回) × 2人 = 3,600,000 パート給与: 80,000 × 12月 + 賞与50,000 × 2回 = 1,060,000	4,660,000	0
	旅 費	1,952,000	理事会・懇話会: 10,000 × 12回 = 120,000 評議員会: 480,000 私大連絡会: 80,000 × 2人 × 3回 = 480,000 他の役員旅費: 500,000 通勤旅費 2人: 30,000 × 12月 = 360,000 その他: 100,000	2,040,000	▲88,000
	事務用品費	360,000	20,000 × 12月 = 240,000	240,000	120,000
	印 刷 費	6,733,000	会報: 春220 × 3,700部 + 秋250 × 4,300部 = 1,889,000 封筒: 大15 × 10,000枚 + 中小10 × 5,000枚 = 200,000 その他: 10,000 × 12月 = 120,000	2,209,000	4,524,000
	通信運搬費	2,327,000	電信電話: 10,000 × 12月 = 120,000 会報: 180 × 5,600通 = 1,008,000 切手葉書代: 200,000 別納郵便代: 200,000 受取人払: 70 × 300通 = 21,000 その他: 20,000	1,569,000	758,000
	設備工事費	100,000	設備拡充のため	200,000	▲100,000
	什品備品費	200,000	器具備品整備	500,000	▲300,000
	事 業 費	10,050,000	総会費: 200,000 研究奨励賞: 1,500,000 卒後教育: 50,000 × 12 = 600,000 新入生歓迎会: 900,000 M4激励会: 1,000,000 国試激励会: 800,000 国試慰労会: 700,000 国試対策費: 200,000 国試応援費: 200,000 支部祝儀: 50,000 × 2 + 30,000 × 10 = 400,000 学生行事援助: 500,000 慶弔贈与費: 20,000 × 3 = 60,000 Tシャツ作製費: 150,000	7,210,000	2,840,000
	会 議 費	1,630,000	理事会: 200,000 評議員会1回: 500,000 会長懇話会: 200,000 奨励賞選考委員会: 80,000 その他: 350,000 (含む副担任会)	1,330,000	300,000
	公 租 公 課	70,000	法人県市民税: 70,000	70,000	0
	雑 費	1,732,000	税理士報酬: 32,000 慶弔費: 200,000 渉外費: 1,000,000 医学部創立30周年記念事業協力: 2,000,000 その他: 400,000	3,632,000	▲1,900,000
	預り金支出	240,000	給与源泉徴収税	122,000	118,000
	引当金積立	2,000,000	会員名簿、パンフレット作成引当(刊行物積立金)	2,000,000	0
	仮 渡 金	0		0	0
	予 備 費	2,464,000		3,547,000	▲1,083,000
	合 計	34,518,000		29,329,000	5,189,000
	収入差引	0		0	0

計 報

増 田 義 哉 様

(特別会員: 元眼科学教授 95歳) 平成15年7月16日ご逝去

田 爪 陽一朗 様

(正会員: 18回生 36歳) 平成15年9月28日ご逝去

謹んでご冥福をお祈りします。なお追悼のお言葉を事務局宛お寄せ下さい。

医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の*印は内科・消化器科の代表)

平成15年10月現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[福 大 病 院]			
血液・糖尿病科	高松 泰	吉田 哲也 ⑪	安西 慶三
循環器科	辻 恵美子	小川 正浩 ⑭	熊谷 浩一郎 ⑦
消化器科	早田 哲郎 ⑪	江口 浩一	岩田 都 ⑬
腎臓内科	小河原 悟 ⑦	村田 敏晃	武田 誠司 ⑪
呼吸器科	石橋 正義	白石 素公 ⑪	豊島 秀夫 ⑧
神経内科・健康管理科	坪井 義夫	藤木 富士夫 (6北)	齊藤 信博 ⑯ (神経)
"		宗清 正紀 (7階)	松永 洋一 ⑤ (健管)
精神神経科	石井 久敬	細美 直彦	浦島 創
" (ディケア)			河野 耕三
小児科	新居見 和彦 ⑤	井上 貴仁 ⑮	山口 覚 ⑤
外科 第一	田中 伸之介 ⑤	永井 哲 ⑫	松尾 勝一 ⑪
外科 第二	白石 武史	前川 隆文 ②	星野 誠一郎
整形外科	檜田 伸一	吉村 一朗 ⑯	城島 宏 ⑭
形成外科	江良 幸三 ⑨	原賀 勇壮 ⑯	河野 克之
脳神経外科	阪元 政三郎 ⑧	岩朝 光利 ⑯	継仁 ⑧
心臓血管外科	芝野 竜一 ⑭	立川 裕 ⑬	財津 龍二 ⑯
皮膚科	清水 昭彦	久保田 由美子	古村 南夫
泌尿器科	田丸 俊三 ⑨	中島 雄一 ⑫	納富 貴 ⑯
産婦人科	井上 善仁	吉里 俊幸 (3東)	田村 理子 ⑯
"		江本 精 (3北)	田村 理子 ⑯
眼科	大里 正彦 ⑨	木村 亮二 ⑯	近藤 寛之
耳鼻咽喉科	原田 博文	毛利 穂 ⑯	今村 明秀 ⑪
放射線科	秋田 雄三	中島 力哉 ⑭	木村 史郎 ⑬
麻酔科	生野 慎二郎	廣田 一紀	平田 和彦 ⑫
歯科口腔外科	豊福 明	宮城 太郎	梅本 丈二
病理部	久野 敏		
臨床検査部	大久保 久美子		
輸血部	熊川 みどり		
救命救急センター	益崎 隆雄 ⑪	武田 阜 ⑯	
総合周産期母子医療センター		雪竹 浩 ③	
[筑 紫 病 院]			
筑紫病院(総医局長)	津田 純郎 ⑥		
内科 第一	山之内 良雄 ⑦	三好 恵 ⑮	浦田 秀則 ③*
内科 第二	二宮 寛 ②	二宮 寛 ②	有富 貴道
消化器科・内視鏡部	津田 純郎 ⑥*	植木 敏晴 ⑧*	戸原 恵二 ⑧
小児科	喜多山 昇 ⑧	益崎 まゆみ ⑯	喜多山 昇 ⑧
外科	東 大二郎 ⑮	関 克典 ⑯	紙谷 孝則 ⑮
整形外科	伊崎 輝昌	古賀 崇正 ⑬	伊崎 輝昌
脳神経外科	相川 博	堤 正則	風川 清
泌尿器科	石井 龍 ⑤	平 浩志 ⑯	石井 龍 ⑤
眼科	武末 佳子 ⑪	小川 聰一郎	武末 佳子 ⑪
耳鼻咽喉科	宮城 司道 ⑨	池田 宏之 ⑯	池田 宏之 ⑯
放射線科	小野 広幸 ⑦		
麻酔科	堀 浩一郎 ⑬		
病理部	原岡 誠司		
救急部	三原 宏之 ⑨		

役職員の改選

任期満了に伴い、下記のように役職員が選出または選任されました。

学 長 山下 宏幸（再・工）
副 学 長 新関 輝夫（元・法） 衛藤 卓也（新・商） 菊池 昌弘（再・医）
医 学 部 長 満留 昭久（再・小児）
病 院 長 白日 高歩（再・2外）
筑紫病院長 田中 彰（新・脳外）

就任はいずれも平成15年12月1日です。

教育職員人事（併任講師以上）

(○内の数字は福大医学部卒業回)

[平成15.4.2～15.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要要
退 職	神経内科・健康管理科	講 師	中 島 雅 士	15. 4. 30	一身上の都合
	筑紫消化器科	併任講師	櫻 井 俊 弘	15. 5. 31	芦屋中央病院
	眼 科 学	併任講師	松 井 孝 明 ⑪	15. 5. 31	大島眼科病院
	眼 科	講 師	加 藤 整 ⑤	15. 7. 31	開業
昇 格	外 科 学 第 二	助 教 授	川 原 克 信	15. 8. 31	大分医大教授
	手 術 部	教 授	山 下 裕 一	15. 10. 1	
	筑紫内科学第一	教 授	浦 田 秀 則 ③	15. 10. 1	
	麻 醉 科	助 教 授	仁 田 原 康 一	15. 10. 1	
	循 環 器 科	講 師	小 川 正 浩 ⑭	15. 10. 1	
	神経内科・健康管理科	講 師	松 永 洋 一 ⑤	15. 10. 1	
	脳 神 経 外 科	講 師	継 仁 ⑧	15. 10. 1	
	眼 科	講 師	近 藤 寛 之	15. 10. 1	
	筑紫消化器科	講 師	八 尾 建 史	15. 10. 1	

平成16年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

申請方法：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353（直通） 内線3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成16年4月30日

賞状・賞金：奨励賞（優秀論文賞を含む）5件以内

発表及び表彰：平成16年7月、第23回同窓会総会席上

そ の 他 ①受賞者は研究報告書を提出する事（研究は2年以内に終了）
②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
③申請書は同窓会事務局に請求の事
④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

事務局からのご連絡とお願い

◆ Eメールアドレスを教えて下さい。

会員の皆様への緊急連絡、その他事務的な連絡を含めて、最近はよくEメールを利用する事が多くなり大変重宝しています。お差し支えなからたらEメールアドレスを教えて戴けませんか。連絡には綴じ込みの「住所勤務先変更連絡表」はがきの該当欄をご利用下さい。

◆ ホームページへのご意見ご要望をお寄せ下さい。

年内を目標に、目下ホームページの改良に取り組んでいます。皆様への正確で迅速な情報の提供と利用のし易さ、同時にプライバシーの保護を考えています。内容の改善向上は今後も常に考えていきますが、皆様の積極的な改善ご意見の提供をお願い致します。

◆ 住所か勤務先を教えて下さい。

長い間“所在不明者0”を誇っていましたが、下記の方々の所在がわからなくなくなりました。ご存じの方がありましたら教えて戴けませんか。会報やその他の刊行物が送れないでいます。わが烏帽子会では卒業生は全員が正会員、同窓会費の納未納には一切関係なく、全員にすべての刊行物をお送りしています。

小 貫 圭 介 (10回生) 竹 中 幸 治 (12回生)
木 下 晴 美 (13回生) 陳 美 智 (15回生)

編 集 後 記

いよいよ日本シリーズです。鷹と虎の一騎打ち。なんだか古い中国の話のようにも聞こえます。といってもこの会報が皆様に届く頃にはもう過去の話になっていますね。

会報担当から広報担当にかわり、現在烏帽子会ホームページの刷新も行っています。上記のように起こる時間差を縮められるように、また情報のやりとりが皆さんとの間で活発にできるようにこのホームページ更新にも今後力を入れていきたいと思っています。そのための基本情報アンケートなどもお願いすることになります。一人でも多くの方のご協力を心よりお願いする次第です。

一度はホームページを覗いて下さい。

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/eboshi/top.htm>です

12月にはお色直ししてお目見えしますのでお楽しみに。(文責 武末佳子：11回生)

— グッズ案内 —



診察衣
価格：下表の通り



ケーシー型
価格：下表の通り



Tシャツ
価格：2千円（送料込み）



ネクタイ
価格：1万円（送料込み）



スカーフ
価格：1万円（送料込み）

白衣サイズ (cm) と価格

区分	サイズ	男性用					女性用					価格 (学生用、OB用共通)
		着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	
診察衣型	S	97	106	44	56	24	88	100	38	51	20	長袖4,300円 半袖4,200円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	M	100	110	45	57	25	91	104	39	52	21	
	L	105	114	46	58	26	96	108	40	53	22	
	LL	105	118	47	59	27	101	112	42	54	23	
	3L	105	124	49	59	27	101	118	44	54	23	
K型	S	72	100	42		24	67	94	38		20	半袖のみ4,300円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	M	74	104	44		25	69	98	39		21	
	C	76	108	46		26	71	102	40		22	
	LL	78	114	48		27	74	106	42		23	
	3L	78	120	50		27	74	112	44		23	

*宅送料は九州管内の場合10着まで500円。管外は少々高くなります。

購入申込 購入ご希望の方は縫じ込みのハガキでお申し込み下さい。お支払いは商品に同封の振込用紙をご利用下さい

〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1福岡大学医学部同窓会
TEL:092-865-6353 FAX:092-865-9484 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

鳥帽子会会報第35号

発行日 平成15年11月15日

発行人 高木忠博

編集人 喜多村泰輔

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話 092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX.092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)